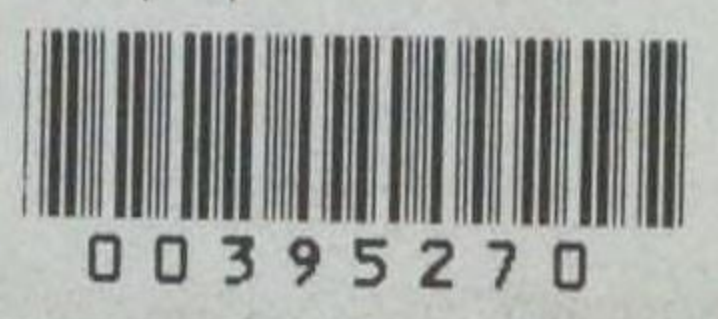


709.2

Ku816s

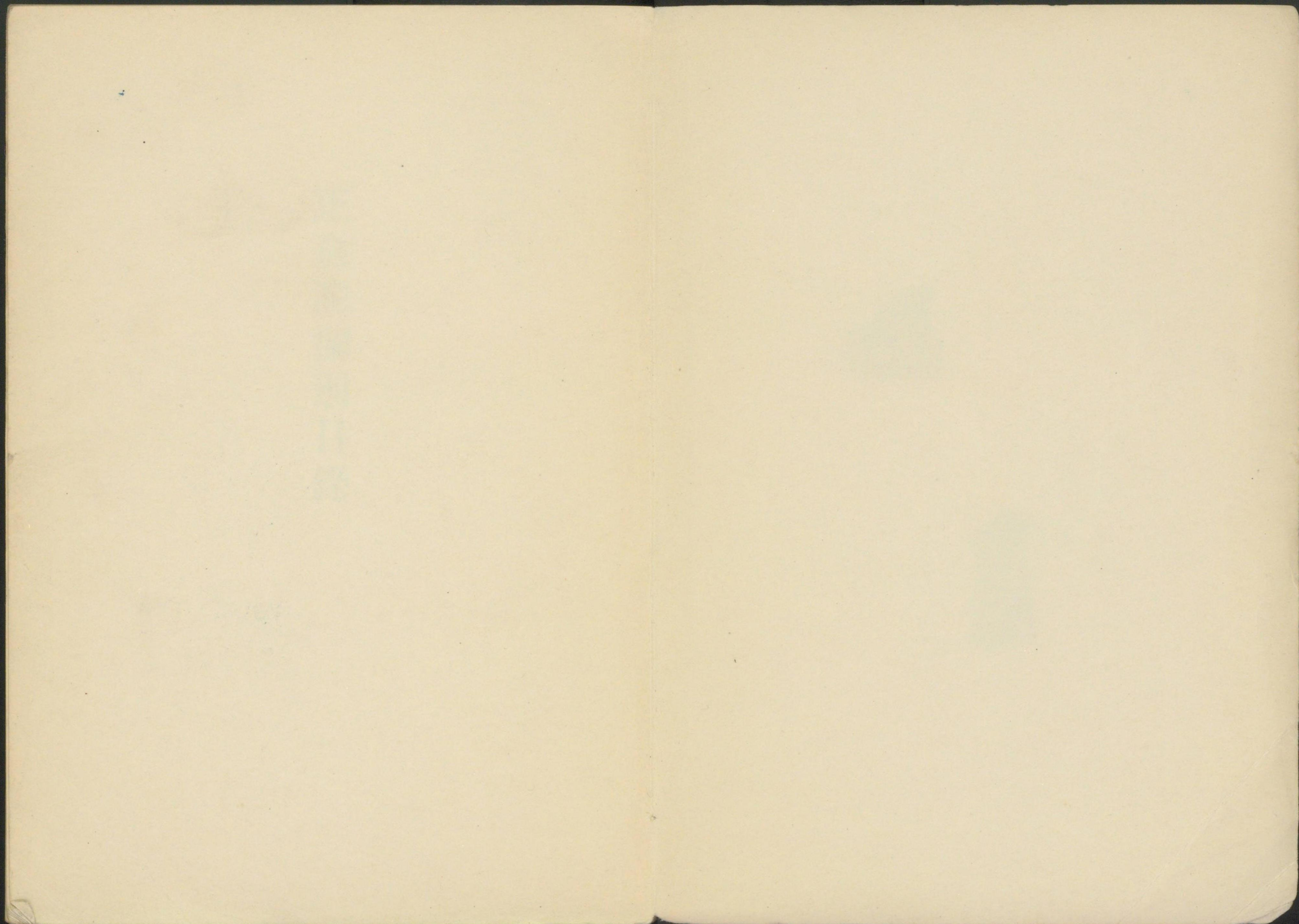
(t)



00395270

正倉院
棚別目録





正倉院棚別目錄

凡 例

- 一、この目録は寶庫に陳列する寶物を列記し、略解を付けたものである。
- 一、寶物の陳列には、時によつて、出入や移動があることを承知せられたい。
- 一、寶物の名稱は、たいてい從來の稱呼に従つたが、少しく變更したものもある。
- 一、寶物の名稱、銘文の引用その他の文字は、特別のものを除いて古體を避けた。
- 一、寶物の名稱その他特殊の文字には、發音式振假名を付けた。
- 一、寶物の名稱上の洋數字は、寶物の題箋番號、また下方の割弧内番號は正倉院事務用である。
- 一、卷首に正倉院小引一篇を配し、卷末に年表を添えて參考に供することとした。

昭和二十六年十月

709.2
Ku8160
(t)



395270

正倉院小引

一

上代の中央地方の官衙や大寺には、大切な物を納れる正倉が設けられていた。東大寺にも大佛殿の後方、講堂を繞ぐる三面僧房の北に當つて正倉が置かれて、その一廓が正倉院と呼ばれた。正倉院寶庫はその倉の一である。寶庫は南北一〇九尺、東西三十一尺、高さ三十八尺、床下九尺、四阿造、單層の豪壯な木造瓦葺である。建物は三室に仕切られ、東に向つて入口が設けてある。北から順に北倉、中倉、南倉という。兩端の倉は校倉造り、中央は南北兩倉の壁を利用しながら東西兩面が板倉式になつてゐる。三倉とも内部は二階になつてゐるが、屋根裏は三倉通しである。

二

天平勝寶八歲(七五六)六月二十一日、皇太后(光明皇后)は聖武天皇の七々忌に相

正倉院小引

一

當するこの日を以て、先帝の御遺物を中心に、數々の珍寶を大佛に奉獻せられた。またこの日藥六十種も同じく奉獻された。これが正倉院寶物の濫觴となつた。この後二年ほどの間に、なお數度の補足的な奉獻がある。

村上天皇の天曆四年(九五〇)東大寺羅索院の倉が甚だ損傷したので、その納物を南倉に移納して綱封とした。鳥羽天皇の永久四年、そのうちの重物が勅封藏(北倉、中倉)に移された。

三

寶庫に天皇署判の封が付けられたのは後世のことであるが、寶庫の開閉は當初から頗る嚴重であつて、勅許を必要とし、事實は勅封である。

都が平安京に遷る頃から寶庫の曝涼と開檢、つまり通風と點檢とが始められたが、その都度勅使が立てられている。

しかし寶庫の納物は出し入れしないというものではなく、必要があれば出藏し、了れば返納した。中には入れ替えもし、出し切りにもなつた。中でも藥は奉獻の時から病苦の者のために用いることが許されていて、頻りに出藏せられて

ゐる。

四

正倉院寶庫の納物は由緒から見れば(一)聖武天皇御遺愛の品を中心として光明皇后が奉獻せられた珍寶と藥、(二)東大寺行幸などの時に宮中から奉獻された珍財、(三)大佛開眼會、聖武天皇后宮子及び聖武天皇御一周忌などの齋會に使用した品々に大別できる。

用途から見れば(一)袈裟・樂裝束などの衣類、(二)皿・鉢・匙などの食器類、(三)鏡・屏風・厨子床などの調度の類、(四)琴・琵琶・尺八・鼓・面などの樂器・樂具、(五)柄香爐・幡・鉢などの佛具、(六)筆・墨・硯・紙などの文房具、(七)弓箭・刀・鉾などの武器の類、其の他に類別できる。

これを技術の面から見れば、彫刻・繪畫・工藝の各般にわたり、金工・木工・漆藝・陶藝・ガラス・染織を網羅する。技法は例を漆藝に採れば、特殊なものに乾漆や平脱があり、染織に錦・綾・羅・帛・絶・布・麻など織法による別、染法による夾纈・絞纈・臈纈の別がある。また材質を金屬に見れば、金・銀・銅・鐵の外に白銅・青銅・黄銅・赤銅・佐波理など

の合金があり、金屬の外には硬玉・碧玉・琥碧水・精眞珠・珊瑚・象牙・犀角・檳榔が工藝品を豊かに飾つてゐる。

また光明皇后の奉獻の物にはそれぞれ目録が添つてゐる。いわゆる獻物帳である。時々曝涼・開檢納物の出入には記録を作つて一通が倉内に留められ、曝涼帳・出入帳と呼ばれてゐる。その外、大寶二年の戸籍をはじめ凡そ八百卷の古文書がある。

五

寶庫の品々は櫃に納めて傳世せられ、曝涼・開檢・出藏などの外は開かれることは、まずなかつたが、平安時代の末頃から上皇をはじめ貴顯の御覽・拜觀があるようになり、近世に至つて文運の進むに伴つて調査や整理が行われ、次第に正倉院の價値が喧傳された。ついに明治十五年庫内に棚を設けて今の姿の陳列を行い、翌年、毎年曝涼の制を立て、また資格を定めて就いて見せしめ、爾來今に至つてゐる。

庫内の陳列は大體、北倉は光明皇后奉獻の品を中心とし、中倉はそれ以外の宮

中奉獻の品、臣下の獻物が多く、また武器がある。南倉は大佛開眼會、聖武天皇御一周忌齋會の用具が中心となつてゐる。

六

正倉院の特質は、ものが古いこと、由緒が正しいこと、傳來の正しい傳世品であること、優秀品であること、多様性がある上に量が多いこと、保存が良いことにあるのは言うまでもない。しかし正倉院の特質として特に言いたいことは、その時代の明確性である。明白な日付をもつ五種の獻物帳が、ものと共に遺つていて、その詳細な特徴記載によつて、その品はこれと押さえることができるのである。また獻物帳以外のものにも付札により、あるいはそのものに書きつけたり、彫りつけた銘文によつて、獻納の日が分り、使用の時が明らかかな品が甚だ尠くない。これは正倉院の學術的價値を決定するものである。それと同時にこれは正倉院が正倉院以外のもの、の時代判定の基準とされる所以である。

いまひとつ大書されてよい正倉院の特質は、その世界性である。盛唐の文化は世界性をもつと共に當時世界最高の文化を誇るものと云つてよいが、その文

化がそのまま凝結したところが正倉院であると言える。従つてこゝにあるものは、もの自體、あるいは意匠、または材質に世界性をもつものが頗る多い。それは遠くアッシリヤ、ギリシヤにつながり、西域殊にペルシヤと、また印度南海と結ばれている。

「正倉院の寶物は人類に遺された最も貴い富の一つである。」というヨーロッパの學者の批評も、この世界性を中心とする正倉院の特質を捉えたものである。

北倉階上

北棚

(1) 天平勝寶八歲六月廿一日獻物帳

國家珍寶帳 【圖版二】

(北一五八)

KENMOTSUCHO OF NATIONAL TREASURES (PL. 2)

天平勝寶八歲(七五六)六月二十一日、聖武天皇七々忌に當つて、宮中から東大寺盧遮那佛、すなわち大佛に獻入せられた寶物の品目を録したものである。外題に「東大寺獻物帳」内題に「國家珍寶帳」とある。卷首に聖武天皇皇后光明皇后御製の願文があり、末文に、皆是先帝翫弄之珍、内司供擬之物とあり、卷末に藤原仲麻呂以下の自署がある。紙面に「天皇御璽」四百八十九顆。白麻紙、白檀の軸。

(2) 天平勝寶八歳六月廿一日獻物帳

種々藥帳

(北一五八)

KENMOTSUCHO OF MEDICINES

前者と同時に獻入せられた藥の品目を録したものであるが、末文に「若有緣病苦可用者、並知檜綱後聽充用」とあることは、まことに意義が深い。仲麻呂以下の自署前に同じく「天皇御璽」四十五顆。白麻紙、白檀の軸。

(3) 天平勝寶八歳七月廿六日獻物帳

屏風花氈帳

(北一五九)

KENMOTSUCHO OF FOLDING SCREENS AND PATTERNED RUGS

歐陽詢眞蹟屏風、王羲之諸帖臨書屏風及び花氈、繡線鞋等の獻物帳である。外題に「東大寺獻物帳」とあり、仲麻呂以下の自署がある。「天皇御璽」十八顆。綠麻紙、桑の軸。

(4) 天平寶字二年六月一日獻物帳

大小王眞蹟帳

(北一六〇)

KENMOTSUCHO OF WANG'S CALLIGRAPHS

王羲之、王獻之の眞蹟一卷の獻物帳で、仲麻呂の自署がある。「天皇御璽」十七顆。碧麻紙、綠瑠璃がらすの軸。この書卷は傳存しない。

(5) 天平寶字二年十月一日獻物帳

藤原公眞蹟屏風帳

(北一六一)

KENMOTSUCHO OF PRINCE FUJIWARA'S AUTOGRAPH SCREEN

光明皇后の父、藤原不比等の眞蹟屏風の獻物帳で、願文に「右件屏風書者、是先考正一位太政大臣藤原公之眞蹟也、妾光明子之珍財、莫過於此」とある。「天皇御璽」十五顆。白麻紙、碧瑠璃の軸。この屏風は傳存しない。

(6) 延暦六年六月廿六日曝涼使解

(北一六二)

BAKURYOSHI-NO-GE, A REPORT OF THE OFFICIAL IN CHARGE OF THE AIRING ON JUNE 26, 787

延暦六年官命によつて寶物曝涼(風通し)の事に當つた有司が、點檢した品目を列舉して、曝涼の始末を上達したものである。外題に「珍財帳」とある。

(7) 延暦十二年六月十一日曝涼使解

(北一六三)

BAKURYOSHI-NO-GE: A REPORT OF THE OFFICIAL IN CHARGE OF THE AIRING ON JUNE 11, 793

外題に曝涼目錄とある。

(8) 弘仁二年九月廿五日勘物使解

(北一六四)

KAMMOTSUSHI-NO-GE: THE TREASURE-INSPECTOR'S REPORT ON
SEPTEMBER 25, 811

勘物使は寶物の檢閱使のことである。

(9) 齊衡三年六月廿五日雜財物實錄

(北一六五)

ZATSUZAI BUTSU JITSUROKU: TRUE RECORD OF VARIOUS PROPERTIES,
DATED JUNE 25, 856

前と同じく寶物點檢の目錄であるが、處々闕失がある。

(10) 禮冠禮服目錄斷簡

(北一六六)

CATALOGUE OF CEREMONIAL HEADDRESSES AND ROBES

聖武天皇と光明皇后、孝謙天皇の禮冠禮服⁽²⁰⁵⁾の目錄斷簡。

(11) 沙金桂心請文

(北一六八)

PETITIONS FOR GOLD DUST AND CASSIA

二張合裝。一張は天平勝寶九歲正月十八日造寺司が沙金二千十六兩を請うたもの、一張は天平寶字三年三月十九日施藥院が桂心一斤を請うたもので、前者には孝謙天皇、後者には淳仁天皇の御裁可を示す「宜」の字が親書されている。

(12) 雜物出入繼文

(北一六七)

ZATSUBUTSU SHUTSUNYU TSUGIBUMI: A SCROLL OF JOINED DOCUMENTS
ON VARIOUS OBJECTS TAKEN OUT OR PUT IN

天平勝寶四年四月八日から弘仁五年六月十七日までの寶物出入關係の文書十二張と齊衡三年の記録⁽⁶⁾の斷簡とを合裝。往來(卷軸の見出し)に「雙倉北繼文」とある。

(13) 出藏帳

(北一六九)

SHUTSUZOCHO: RECORD OF WITHDRAWAL FROM THE REPOSITORY

天平寶字三年、赤漆文櫃木厨子⁽⁴⁵⁾に納めてあつたものの出藏(藏出し)と、御劍の出藏の文書二張の合裝。往來に「御劍出」「天平寶字三年」とある。

(14) 出入帳

(北一七〇)

SHUTSUNYUCHO: MEMORANDUM OF ARTICLES WITHDRAWN OR ENTERED

天平勝寶八歳十月三日から天應元年八月十八日までの寶物出入の文書十二張と、天應二年二月廿二日及び延暦三年三月廿九日の寶物返納の文書とを合装する。卷首に「雙倉北雜物出用帳」往來に「雙倉北物用帳」「東大寺 天平勝寶八歳始」とある。

(15) 王羲之書法返納文書

(北一七一)

DOCUMENTS CONCERNING THE RETURN OF WANG HSI-CHIH'S CALLIGRAPHS

天應元年八月十八日出藏した書法を延暦三年三月廿九日返納した時の文書。

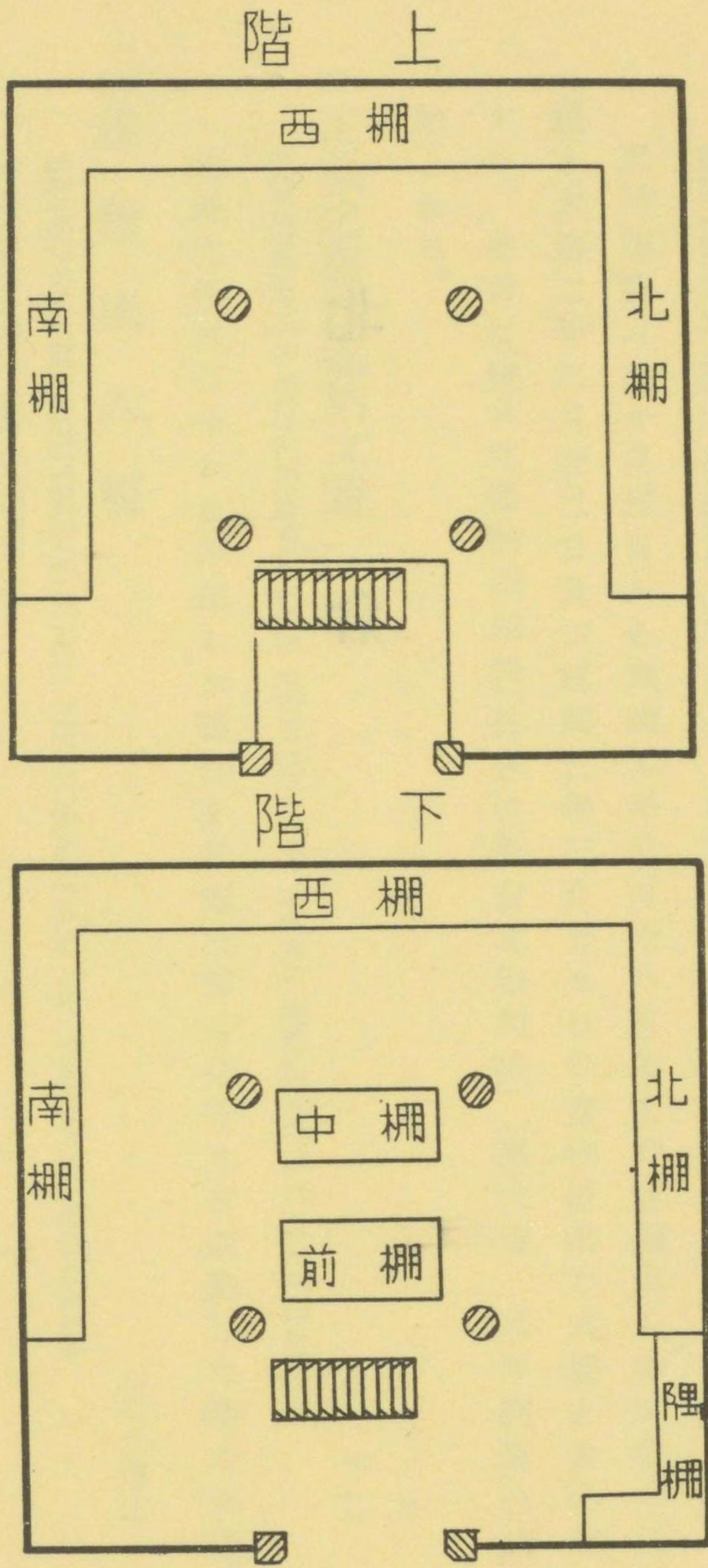
(16) 雜物出入帳

(北一七二)

ZATSUBUTSU SHUTSUNYUCHO: MEMORANDAM OF VARIOUS ARTICLES WITHDRAWN OR ENTERED

弘仁二年九月廿四日から天長三年九月一日までの寶物出入の文書十一張合装。

北倉



往來に「雙倉」雜物下帳とある。

(17) 御物納目散帳

GOMOTSU NOMOKUSANCHO: DOCUMENTS CONCERNING ARTICLES OF IMPERIAL DEDICATION

(北一七三)

天平寶字元年閏八月廿四日から寛喜三年三月十四日に至る納物の目録など十四張の文書を合装する。

(18) 漆皮箱 三合

LACQUERED HIDE BOXES FOR KESA

(北一)

(91) | (94) の御袈裟を納めた獻物帳所載のもの。黒漆塗の皮箱で、御袈裟の幞つみみ(16)と箱袋(20)とを納める。

(19) 御袈裟幞つみみ 袷あわせ 三條

SILK FOR WRAPPING THE KESA

(北一)

表裏とも花菱文の碧綾みどりのふろしき。獻物帳に「碧綾幞袷」とある。前號の箱に納める。

(02) 御袈裟箱袋 二口

(北一)

SILK BAGS FOR KESA BOXES

花鳥襷文の緑、藤(縹)染の絶粗い絹の表に、浅緑の絶の裏をつけた袋で、獻物帳には三合とあるが、いまその一を闕く。(18)の箱に納める。

(21) 御袈裟附屬殘闕

(北一)

FRAGMENTS OF KESA AND ACCESSORIES

(91) — (94)の御袈裟附屬の組緒などの殘闕。

(22) 雜

集 【圖版三】

(北三)

ZASSHU: A MISCELLANY (PL. 3)

獻物帳に「白麻紙紫檀軸、紫羅標、綺帶」。「平城宮御宇後太上天皇御書」とあり、聖武天皇が六朝・隋・唐の詩文百四十餘章を鈔録されたもので、卷尾に「天平三年九月八日寫了」とある。

羅は菱文を織り出したうすもの、標は表紙のこと、綺は細長く縞目を織り出した色糸の絹。

(23) 杜家立成

(北三)

TOKA RISSEI: A MODEL LETTER WRITER

獻物帳に「頭陀寺碑文并杜家立成一卷、紫羅標、綺帶、皇太后御書」とあつて、光明皇后の御筆に成るものであるが、碑文は傳つていない。この書は往復書簡文七十二篇を収めた文例集と稱すべきもので、杜家は編者の姓、立成はこの文例を参考すれば書簡文が立どころに成るの意であろう。料紙は諸種の色の麻紙十九張を継ぎ合せたもので、繼目裏と卷尾に「積善藤家」の方印が捺されている。

(24) 樂

毅論 【圖版四】

(北三)

GAKKI-RON: AN ESSAY (PL. 4)

光明皇后の御筆で、獻物帳に「皇太后御書」外題に「紫微中臺御書」また卷末に「天平十六年十月三日藤三娘」とある。紫微中臺は皇后宮職の唐名、藤三娘は不比等の第三女であるからの御自稱。樂毅論は將軍樂毅を論じたもので、魏の夏侯泰初の作である。

(25) 白葛箱

TSUZURA BOX, A VINE BASKET-WORK BOX OF TSUZURA

獻物帳によれば、前記御書三卷と亡佚した元正天皇御筆孝經とが納めてあつた箱である。

(北三)

(26) 斑犀偃鼠皮御帶殘闕

GIRDLE OF MOLE SKIN WITH SPOTTED RHINOCEROS-HORN

斑の犀角で作つた銚かざりを着けた偃鼠かざりもぐらもちの皮の帶。今残るところは方形じゆんほうと半圓形まるごも丸まる柄ごもの銚と銀の鉸具だけで、偃鼠皮は鉸具に僅かに附着するに過ぎない。

(北四)

(27) 御刀子 二口

TOSU, TWO KNIVES

一口は象牙を緑に染めて、花鳥山水の文様を撥はちる鏤くはねぼりした把つかと鞘で、金具は銀に鍍金したものの。一口は斑犀の把、白牙の鞘、金具は同じく銀鍍金のものであるが、この刀子は前記の帯に錦の藥袋と共に繫着されていた刀子六口中のも

(北五)

のである。

(28) 斑貝鞋鞆御帶殘闕

GIRDLE OF KETSUMAKU WITH MOTTLED SHELL

錦貝ややくの夜久乃斑貝むらがひで作つた銚かざりを着けた帯の殘闕で、斑貝の巡方と丸柄及び鉸具だけが残つている。鞋鞆は老木の身と皮との間に生ずる一種の菌。

(北六)

(29) 十合鞘御刀子 【圖版五】

TEN TOSU IN CLUSTERED SHEATHS (PL. 5)

十口の鞘を一つに束つかね、刀子など左の品を備えている。

黒柿把刀子 六 金銅口(銅に鍍金した把口) 五、銀口一

黒柿把錯やすび 一 把口は銅に金漆を塗つた金漆銅口

紫檀把錯 一 金銅口

黒柿把鉈かんな 一 金漆銅口の槍鉈

紫檀把鑽きり 一 金銅口、一方は刀子

(北七)

(30) 三合鞘御刀子 【圖版五】

THREE TOSU IN CLUSTERED SHEATHS (PL. 5)

(北八)

- 斑犀把刀子 一 金銅口、刃本に鏤ほりがある
- 紫檀把刀子 一 前に同じい
- 沈香把刀子 一 前に同じい

(31) 小三合水角鞘御刀子

THREE SMALL TOSU WITH BUFFALO-HORN CLUSTERED SHEATHS

(北九)

- 白犀把刀子 二 金銅口
- 烏犀把刀子 一 前に同じい

水角は水牛の角、白犀は色の薄い犀角、烏犀は黒色の犀角。

(32) 牙しやく笏

笏しやく

(北一〇)

IVORY SHAKU, SCEPTRE

獻物帳に「長一尺三寸二分 本廣一寸九分」とある。

(33) 通天牙もひ笏

(北一一)

IVORY SHAKU

白象牙もひ本から末まで白羽のような美しい文理あやめが一條通っている。これによ

つて通天牙の美稱があるのであろう。獻物帳に「長一尺一寸八分 本廣一寸六分」とある。

(34) 大魚骨笏

(北一二)

SHAKU MADE OF THE BONE OF A "BIG FISH"

獻物帳に「長一尺二寸一分 本廣一寸九分」とある。大魚は鯨のことであらう。

(35) 紅牙撥鏤尺

(北一三)

IVORY FOOTRULES (PL. 6)

(36) 緑牙撥鏤尺

(北一四)

IVORY FOOTRULES

象牙を紅(35)又は緑(36)に染め、表裏側面とも文様をはねぼりして、更に色差してある。いづれも一尺で表側に一寸を劃する刻線がある。

(37) 白牙尺

(北一五)

IVORY FOOTRULES

一尺で一面に一寸目、一分目の目盛りがある。各二九纏六。

(38) 犀角杯 二口
RHINOCEROS-HORN CUPS (北一六)

獻物帳に犀角杯二口があるが、弘仁五年出藏。

(39) 雙六頭 六隻
DICE FOR SUGOROKU (北一七)

獻物帳に「雙六頭一百一十六具一隻、未造了二具」とあるものの内で、白牙で作り、一から六までの眼のつけ方は、今の物と同じである。

(40) 雜玉雙六子 八十五
SUGOROKU PIECES (北一八)

黒漆塗小皮箱が添っている。獻物帳に「雜玉雙六子六百六十九」「納小皮箱」とある。「雜」は種々の意。現存するもの左の八十五である。

水精 十二 琥碧 十二 黄瑠璃 十五 藍色瑠璃 一
淺綠瑠璃 十五 綠瑠璃 十五 白碁子 十四 黒碁子 一

(41) 百索縷軸
HYAKUSAKURU-NO-JIKU, ROLLER FOR HUNDRED ROPE STRANDS (北一九)

紡錘形をなし、軸端は粉地雲縹彩色。昔漢土で端午の日に、五色の縷で索を作り、臂にしばつて、災を防ぐものとなし、百福百壽索と云つた。略して百索という。いま縷を巻く軸だけ遺る。

(42) 玉尺 八
SHAKUHACHI, VERTICALLY BLOWN FLUTE MADE OF JADEITE (北二〇)

當時の尺八はいまのものとは異り、表の孔が六つある。

(43) 尺 八
SHAKUHACHI, VERTICALLY BLOWN FLUTE MADE OF PLAIN BAMBOO (北二一)

(44) 樺纏尺 八
SHAKUHACHI, VERTICALLY BLOWN FLUTE OF BAMBOO (北二二)

樺櫻の皮が纏いてある。

(45) 刻彫尺八

SHAKUHACHI, VERTICALLY BLOWN FLUTE OF BAMBOO

(北二三)

全面花文を刻し、その間、樹下美人風の人物を配している。

(22) の雑集から刻彫尺八まで次の厨子の納物であつた。ただし(38)犀角杯二口を除く。

(46) 赤漆文櫨木御厨子

【圖版七】

(北二)

RED LACQUERED CABINET (PL. 7)

文櫨木は木目に文のあるけやき、櫨は槻の古體である。獻物帳に「古様作」とある。又その傳來について、同帳に「右件厨子、是飛鳥淨原宮御宇天皇(文武)傳賜藤原宮御宇太上天皇(持統)、天皇傳賜藤原宮御宇大行天皇(文武)、天皇傳賜平城宮御宇中太上天皇(元正)、天皇七月七日傳賜平城宮御宇後太上天皇(聖武)、天皇傳賜今上(孝謙)今上謹獻盧舍那佛」とある。

西棚

(47) 紫檀木畫挾軾

【圖版八】

(北四八)

ARM-REST (PL. 8)

木畫(寄木細工)を施し、金銀泥で山嶽花卉などを描き、脚柱は白牙の脇息である。褥挾軾の上の敷き物が添うている。獻物帳によると白羅の褥であるが、羅は剝落して、麻を心とした中心の白綾が遺つている。

(48) 鳳形錦御軾

【圖版八】

(北四七)

ARM-REST (PL. 8)

(46) 長斑錦御軾

ARM-REST

(北四七)

長斑錦は花文を數條に配し、條の地色を色變りにした錦である。

(50) 白練綾大枕

LARGE WHITE PILLOW

(北四六)

獻物帳に大枕とあるが、弘仁二年の勘物使解(8)の目録には大軾とある。

(51) 銀薰爐

SILVER INCENSE BURNER (PL. 9)

(北一五三)

花形葛文獅子鳳を透彫した香爐で、中央で二つに開く。内に龕燈返しの鐵爐を装置し、衣服や衾などに香を焚きこめるに用いる。下半分は新補。

(52) 人勝殘闕雜張

JINSHO, A DECORATIVE GREETING CARDS USED FOR GIFT OR EX-CHANGE AT THE NEW YEAR'S SEASON

(北一五六)

人勝は荆楚歳時記に「人日剪綵爲花勝、以相遺、或鏤金薄爲人勝」と見え、色布で人物花卉の形を作つて贈答した。齊衡三年の雜財物實錄(9)に「人勝二枚、一枚在金薄字十六、一枚押綵繪女形等、邊縁有金薄裁物、納斑蘭箱一合、天平寶字元年潤八月廿四日獻物」とある。いま二枚の殘片を集めて一張としてある。黄羅の上に

「令節佳辰、福慶惟新、變變か和万載、壽保千春」の佳祥の文字がある。なお「納入勝箱」と朱書した箱があるが、これは柳箱である。

(53) 繡線

鞋

四兩

(北一五二)

EMBROIDERED SHOES

赤地錦を張つた履で、爪先に花形の刺繡がある。獻物帳によると、もと八兩あつたもの。

(54) 漆

胡瓶

【圖版一〇】

(北四三)

LACQUERED EWER (PL. 10)

獻物帳に「銀平脱花鳥形、銀細鎖連繫鳥頭蓋、受三升半」とあるもので、籠地に布を張り、これに漆をかけ、銀平脱で文様を現わし、注口は鳥頭に象つて、その蓋と把手を銀の鎖で繋いである。

平脱は金や銀の薄板を用いて文様を截り、器の上に漆で塗りこめ、更に文様を磨き出し、毛彫をして仕上げる手法である。

(55) 赤 漆 小 櫃

LACQUERED SMALL CHEST

(北一八〇)

(95) の御床の緑緋袴履を納める。

(56) 細 長 櫃

LONG BOX

(北一七九)

(96) の御大刀を納めたもの。

南 棚

(57) 漫 背 八 角 鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR

(北四二ノ四)

背に文様がない鏡で、獻物帳に「重大十四斤十五兩、徑一尺四寸七分」とある。緋
絶の舊帶遺存。いま付いているのは新品以下これに倣う)

重さを測るに大斤・小斤、大兩・小兩があり、大は小の三倍、一斤は十六兩で、大一斤
は約〇・六疋、大一兩は約三七・五瓦に當る。なお獻物帳に載っている鏡は二十面
であるが、五面は弘仁十三年三月二十六日に出藏された。

(58) 八 角 楹 匣

OCTAGONAL BOX

前號の鏡の箱。印籠蓋で緋綾のうらぼり覗がある。(60) (62) (64) もこれに同じい。

(59) 鳥 獸 背 八 角 鏡

(北四二ノ三)

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF BIRDS AND ANIMALS
ON THE BACK

獻物帳に「鳥獸花背」重大十三斤十五兩、徑一尺四寸五分半」とあるが、花の文様
はない。緋絶の舊帶遺存。

(60) 八 角 楹 匣

OCTAGONAL BOX

前號の鏡の箱。

北 倉 階 上

(61) 鳥獸花背八角鏡 【圖版一一】

(北四二ノ二)

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF BIRDS, ANIMALS AND FLOWERS ON THE BACK (PL. II)
徑六四糎五、獻物帳に「重大四十八斤八兩、徑二尺一寸七分」とある大鏡で、緋繩の舊帶遺存。

(62) 八角楹匣 【圖版一一】

OCTAGONAL BOX (PL. II)
前號の鏡の箱

(北四二ノ三)

(63) 鳥獸花背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF BIRDS, ANIMALS AND FLOWERS ON THE BACK

獻物帳には「鳥花背」とあるもの「重大四十三斤八兩、徑一尺五寸八分」とある。緋繩の舊帶遺存。

(64) 八角楹匣

OCTAGONAL BOX

前號の鏡の箱

(65) 平螺鈿背圓鏡

(北四二ノ五)

ROUND BRONZE MIRROR

獻物帳に「重大七斤五兩、徑一尺二寸五分、平螺鈿背」とある。この鏡以下(78)までの八面の鏡は、後堀河天皇の寛喜二年に僧顯識らが盗んで、京都で賣ろうとして賣れないので、破毀したものである。未修理。箱を失う。

(66) 漆皮鏡箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

(67) 漆背金銀平脫圓鏡

(北四二ノ六)

ROUND BRONZE MIRROR

獻物帳に「重大六斤一兩、徑一尺二寸六分」とある。未修理。箱は失う。

(68) 漆皮鏡箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

(69) 平螺鈿背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ九)

獻物帳に「重大三斤十三兩、徑九寸一分」とある。破片五を合せて補修。

(70) 漆皮箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱、緋綾の覗。

(71) 平螺鈿背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ一〇)

獻物帳に「重大三斤七兩、徑九寸」とある。破片四を合せて修補。

(72) 漆皮箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱、緋綾の覗。

(73) 平螺鈿背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ八)

獻物帳に「重大四斤三兩、徑一尺」とある。破片十三に一片を補足して修補。

(74) 漆皮箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱、緋綾の覗。

(75) 平螺鈿背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ七)

獻物帳に「重大五斤一兩、徑一尺一寸」とある。破片八に三片を補足して修補。

(76) 漆皮箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱。緋綾の覗。

(77) 漆背金銀平脱八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ一二)

獻物帳に「重大四斤一兩、徑九寸六分」とある。破片十四に二片を補足して修補。

(78) 花鳥背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF FLOWERS AND BIRDS IN RELIEF

(北四二ノ一四)

獻物帳に「重大五斤十三兩、徑一尺一寸三分」とある。破片四十五に六片を補足して修補。

(79) 漆鏡箱

ROUND LACQUERED BOX

緋綾の覗。

(80) 平螺鈿背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ一一)

獻物帳に「重大三斤十二兩、徑九寸一分」とある。多く舊態を保っている。

(81) 平螺鈿背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, THE MOTHER-OF-PEARL INLAY ON LACQUERED BACK

(北四二ノ一三)

獻物帳に「重大三斤四兩、徑九寸二分」とある。舊態を保つところが多い。緋絶の舊帶遺存。

(82) 漆皮金銀繪鏡箱

OCTAGONAL LACQUERED BOX, WITH PAINTINGS OF FLOWERS AND BIRDS IN GOLD AND SILVER

緋綾の覗があるが、残破している。

(83) 槃龍背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF TWO ENTANGLED DRAGONS

(北四二ノ一六)

獻物帳に「重大六斤一分、徑一尺七分」とある。緋絶の舊帶遺存。

(84) 漆 皮 箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱で、緋綾の覗は朽壞してゐる。

(85) 花 鳥 蝶 背 圓 鏡

(北四二ノ一五)

ROUND BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF FLOWERS, BUTTERFLIES AND BIRDS

獻物帳の「重大六斤五兩、徑一尺七分、花鳥背」の鏡に當るものともいえな。緋絶の舊帶遺存。

(86) 漆 皮 箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱で、緋綾の覗。

(87) 雲 鳥 飛 仙 背 圓 鏡

(北四二ノ一七)

ROUND BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF BIRDS AND IMMORTALS RIDING ON CRANES AMONG CLOUDS

獻物帳の「重大四斤十二兩、徑九寸三分、雲鳥背」の鏡に當るものともいえな。緋絶の舊帶遺存。

(88) 漆 皮 箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱で、緋綾の覗。

(89) 山 水 鳥 獸 背 圓 鏡

(北四二ノ一八)

ROUND BRONZE MIRROR, WITH A DESIGN OF LIONS, MONKEYS, DEER AND BIRDS IN A LANDSCAPE

獻物帳の「重大四斤十五兩、徑九寸二分、山水花蟲背」の鏡に當るものともいえな。緋絶の舊帶遺存。

(90) 漆 皮 箱

ROUND LACQUERED HIDE BOX

前號の鏡の箱で、緋綾の覗。

(91) 九條刺納樹皮色袈裟

KESA OF SHINO IN TREE-BARK COLOUR IN NINE STRIPS

(北一)

九條は一幅の裂を九枚繋いであること、刺納は各種の色の裂を寄せ、また重ねて刺子にしたものを磨り減らす手法、樹皮色は諸種の色が不規則に交錯して作る一つの文様。この類の袈裟を遠山袈裟という。碧綾の裏がついている。

(92) 七條褐色紬袈裟

BROWN TSUMUGI KESA OF SEVEN STRIPS

(北一)

獻物帳に「金剛智三藏袈裟」とある。紬というが、或は羅か。

(93) 七條織成樹皮色袈裟

SHOKUSEI KESA OF TREE-BARK COLOUR IN SEVEN STRIPS

(北一)

色糸で遠山形を織り出す。紺綾の裏。織成は辭源に「與錦極相似、唯古錦皆有地、織成全以采絲或金縷織爲文章耳」とある。

(94) 七條刺納樹皮色袈裟

六領

(北一)

SHINO KESA OF TREE-BARK COLOUR IN SEVEN STRIPS

碧綾の裏二領、紺絹の裏一領、紺綾の裏一領、紺繩の裏一領。

(95) 御

床 二張

(北四九)

ON-SHO, FOUR-LEGGED RECTANGULAR SEATS

獻物帳に「並塗胡粉具、黒地錦端疊、褐色地錦褥一張、廣長亘兩床、綠繩袷覆一條」とある。褥は未發見。御床の胡粉は僅かに痕を留めている。

(96) 金銀鈿莊唐大刀

【圖版一二】

(北三八)

SWORD EMBELLISHED WITH GOLD AND SILVER (PL. 12)

銀に鍍金した装具に珠玉を嵌めた大刀で、獻物帳に「刃長二尺六寸四分 鋒者兩刃 鮫皮把、作山形葛形裁文 鞘上末金鏤作 白皮懸 紫皮帶執」とあるもの。末金鏤は漆地に錯でおろした金粉で文様を現わす手法。

獻物帳所載の銀平文琴が弘仁五年十月十九日に出版された代りとして、同八年五月十七日に納入されたものである。

(100) 殘 絃 (北一五四)

STRINGS FOR MUSICAL INSTRUMENTS

白絃 附屬の小木箋墨書 「琴絃」 「白」

斑絃 同 「琴絃」 「斑」

中小絃 同 「中絃五」 「小絃五」

箏絃 同 「箏絃」

(101) 銀平脱合子 (北一五四)

GOSU INLAID WITH SILVER

獻物帳には前號の絃を銀平脱の梳箱くみばこに盛るとあるが、梳箱を佚し、この合子あひこ蓋物ふたものに換つてゐる。

(102) 螺鈿紫檀阮咸 (北三〇)

GENKAN INLAID WITH MOTHER-OF-PEARL, AMBER AND TORTOISE SHELL (PL. 15)

獻物帳に「綠地畫捍撥」とあつて、捍撥けんぱく撥の當るところの綠地の革に人物を描く。全器を螺鈿・琥珀・瑇瑁たがひで飾る。

阮咸は四絃の樂器で、名稱は竹林の七賢人の一人、晋の阮咸の名に因る。

(103) 螺鈿紫檀五絃琵琶 (北二九)

FIVE-STRINGED BIWA INLAID WITH MOTHER-OF-PEARL, AMBER AND TORTOISE-SHELL (PL. 16)

撥面に瑇瑁を貼り、螺鈿で駱駝らくだに乗る胡人が琵琶を弾ずる圖を現わしている。

(104) 彫石横笛 (北三三)

STONE FLUTE, WITH A DESIGN OF ENTWINED VINES AND INSECTS CARVED IN RELIEF

(105) 彫石尺八 (北三四)

STONE SHAKUHACHI, WITH A DESIGN OF ENTWINED VINES AND INSECTS CARVED IN RELIEF (PL. 18)

この横笛と尺八は對をなすもので、ともに蔓草文を浮彫する。

(106) 漆鞘御杖刀

CANE SWORD

獻物帳に「刃長一尺九寸、鋒者、偏^{かたは}刃、鮫皮把、金銀線押縫、以牙作頭、以漆塗鞘、以鐵^{てつ}裹^ま鞘尾、銀鏤其上、長四尺六分」とあるもの。押縫は鮫皮の合せ目を金銀線で押縫うこと、頭は把頭^{つかがしら}、銀鏤は銀象嵌のことである。

(北三九)

(107) 吳竹鞘御杖刀

CANE SWORD

獻物帳に「刃長二尺一寸六分、鋒者偏^{かたは}刃、金鏤星雲形、紫檀樺纏眼及把竝用銀、紫組懸、吳竹鞘樺纏、長五尺三寸四分」
金象嵌の星雲は北斗七星と雲。樺纏は樺櫻の皮で纏くこと、眼は把の眼貫孔^{めぬきあな}、紫組懸は眼貫孔に通した紫の組紐。

(北三九)

(108) 細長櫃

LONG BOX

右二口の杖刀の容器。

(北一七九)

(109) 檜和琴殘闕

KOTO, IN THE JAPANESE STYLE

(北一八一)

(110) 棚厨子

TIER OF SHELVES

(北一七四)

(109) 前棚に納めてある品々が載っている。
(110) は獻物帳に見えないが、弘仁二年勸物使の解(8)に載っている。

中棚

(111) 金泥繪新羅琴

SHIRAGI KOTO OF PAULOWNIA WOOD

(北三五)

獻物帳所載の金鏤新羅琴二張は、弘仁十四年二月十九日出藏、同年四月十四日、本號及次號の琴二面が代りに納められた。この琴は十二絃、新羅樂の用物。雜

物出入帳(16)に「表圖木形金泥畫裏以金薄押遠山竝雲鳥草等形、前面畫日象」とあるものであるが、撥面を佚し、表裏の畫剝落して、頭部に金繪の一部を残すだけである。絃は殘闕によつて摸造、組緒は新補、柱は舊物三。

(112) 金薄押新羅琴

【圖版一七】

(北三五)

SHIRAGI KOTO OF PAULOWNIA WOOD DECORATED WITH KIRI-KANE
(CUT-GOLD) (PL. 17)

雜物出入帳に「表以金薄押輪草形鳳形、裏以金薄畫大草形、前面畫草鳥形」とある。絃は摸造、組緒は新補、柱は舊物六。

金薄押は截金(きりかね)金薄を剪つたもので、文様を貼付けたものである。

(113) 吳

竹

笙

【圖版一八】

(北三一)

SHO OF SMALL BAMBOO OF THE SPECIES KNOWN AS KURE-TAKE (PL. 18)

(114) 吳

竹

筥

【圖版一八】

(北三二)

WU OF SMALL BAMBOO OF THE SPECIES KNOWN AS KURE-TAKE (PL. 18)

筥は笙の類で形が大きい。笙筥とも獻物帳に「漆膝(すね)壺」とある。膝は壺に付け

る吹口。

(115) 螺鈿紫檀琵琶

(北二七)

BIWA OF SHITAN-WOOD, INLAID WITH MOTHER-OF-PEARL

獻物帳に「綠地畫捍撥」とあるが、捍撥を佚する。

(116) 紅牙撥鏤撥

(北二八)

BIWA PLECTRUM OF IVORY STAINED CRIMSON AND CARVED

前號琵琶の撥で、兩面に花鳥を彫つてゐる。

(117) 棚

厨

子

(北一七四)

TIER OF SHELVES

(110) に同じ。

(118) 鳥毛帖成文書屏風 六扇

SCREEN PANELS WITH LETTERS FORMED WITH BIRD'S FEATHERS

(北四四)

一疊六扇、無文の紙本に、鳥毛を貼つて文字を成したもので、文は左のとおりである。(一行一扇を示す)

種好田良易 _レ 以 _レ 得 _レ 穀	君賢臣忠易 _レ 以 _レ 至 _レ 豊
諛辭之語多 _レ 悅會 _レ 情	正直之言倒 _レ 心逆 _レ 耳
正直爲 _レ 心神明所 _レ 祐	禍福無 _レ 門唯人所 _レ 召
父母不 _レ 愛 _レ 不 _レ 孝之子	明君不 _レ 納 _レ 不 _レ 益之臣
清貧長樂濁富恒憂	孝當 _レ 竭 _レ 力忠則盡 _レ 命
君臣不 _レ 信國政不 _レ 安	父子不 _レ 信家道不 _レ 睦

元祿中の修理。

屏風は天平勝寶八歳六月二十一日一百疊をはじめ七月二十六日天平寶字二

年十月一日にも獻入され、弘仁五年九月十七日三十二疊出藏されても、なお多數遺つてゐるが、表装の剝落して舊態が窺いにくいものが多い。

(119) 鳥毛篆書屏風 六扇 【圖版一九】

(北四四)

SCREEN PANELS WITH "SEAL" STYLE CHARACTERS FORMED WITH BIRD'S FEATHERS (PL. 19)

一疊六扇、紙本彩地に花文を白く抜いた上に、鳥毛を貼つて篆書を作り、一字毎に楷書の同字を彩色で繰返している。その文は左のとおりである。(かぎ割弧は扇別を示す)

主無 _レ 獨治	臣有 _レ 贊明	箴規苟納	咎悔不 _レ 生	明王致 _レ 化	務在 _レ 得 _レ 人
任 _レ 愚政亂	用 _レ 哲民親	近 _レ 賢無 _レ 過	親 _レ 佞多 _レ 惑	見 _レ 善則遷	終爲 _レ 聖德

また玉蟲翅翼の裝飾がある。この屏風も元祿中の修理。

(120) 揩_{すり}布_の屏風袋 三口

(北四五)

BAGS FOR SCREENS, OF HEMP-CLOTH, PRINTED OR STAMPED

獻物帳所載のものでなく、袋だけである。麻布で袷になつていて、型を置いて

文様を摺り出したもの。三口とも墨書がある。一口に「東大寺屏風袋、天平勝寶五年三月廿九日」「緑地馬木形高五尺」「緑地馬從人形」「矢田部咋万呂」。一口に「緑地」木形高五尺」「天平勝寶五年三月廿九日裏に「占部馬麻呂」「上野國佐位郡佐位郷戸主杷前部黑麻呂庸布一段長二丈八尺 廣二尺四寸天平成感寶元年八月 主當國司」
□二等義□、郡司大領木杷前部君賀味麻呂。一口に「東大寺屏風袋、天平勝寶五年三月廿九日」「白椽地木鳥象馬形裏に「矢田部咋万呂」とある。天平勝寶五年三月廿九日、東大寺で仁王會が行われたことは續日本紀に見えている。

北 棚

(121) 鳥毛立女屏風 六扇 【圖版二〇】

SCREEN PANELS WITH DESIGN OF LADIES UNDER TREES, DECORATED WITH BIRD'S FEATHERS (PL. 20)

(北四四)

樹下美人の屏風で、各扇圖柄がちがうが顔と手先に彩色を施し、著衣樹石には鳥毛を貼つたもの。鳥毛が僅かに残つたところがある。

(122) 山水夾纈屏風 四扇

SCREEN PANELS WITH LANDSCAPE DESIGN IN KYOKECHI

(北四四)

獻物帳所載十二疊中のもの。圖様は四扇とも同型。三扇は絶地、一扇は紗地である。夾纈は花文を彫り抜いた二枚の板に裂きれを挟んで染めたものである。

(123) 鹿草木夾纈屏風 六扇

SCREEN PANEL WITH DESIGN OF ANIMALS IN KYOKECHI

(北四四)

獻物帳に載せる麟鹿草木夾纈屏風十七疊の中の鹿草木夾纈屏風五疊中の一扇である。

(124) 鳥木石夾纈屏風 六扇

SCREEN PANELS WITH DESIGN OF BIRDS, TREES AND ROCKS IN KYOKECHI

(北四四)

獻物帳所載の九疊中のもので、二扇相並んで左右對稱となる。

(125) 鳥草夾纈屏風 六扇 【圖版二一】 (北四四)

SCREEN PANELS WITH DESIGN OF BIRDS AND GRASSES IN KYOKECHI (PL. 21)

絶地二扇、綾地四扇

(126) 古人鳥夾纈屏風 (北四四)

SCREEN PANEL WITH DESIGN OF MAN AND BIRDS IN KYOKECHI

獻物帳所載の四疊は弘仁五年出藏して還納されない。本號のものは別種で名稱も當らなす。

(127) 藟纈屏風 四扇 【圖版二一】 (北四四)

SCREEN PANELS WITH DESIGN OF ANIMALS AND BIRDS IN ROKECHI (PL. 21)

各扇象・羊・熊・鷹・尾長鳥と圖様がちがう。雜財物實錄(9)から判断するに四種の屏風の殘闕と考えられる。

(128) 木畫紫檀碁局 【圖版二二】 (北三六)

GO GAMING BOARD (PL. 22)

木畫を施した紫檀(張り)の碁盤で、縦横十九の界線と脚は象牙、鑲を着けた抽斗

が二個相對している。抽斗は一方を引けば、他の方もおのずと開き、内に龜形が割つてある。

(129) 金銀龜甲龕 (北三六)

BOX FOR GO BOARD

前號の納れ物。綠地に金箔銀箔の花文を置いた上に瑇瑁を張り、鹿角で龜甲形の界を作つてゐる。

(130) 木畫紫檀雙六局 (北三七)

SUGOROKU GAMING BOARD, A SHITAN-WOOD STAND

雙六盤である。獻物帳によると脚は象牙であるが、黄楊木で新補する。

(131) 漆縁籐篋 (北三七)

BOX FOR SUGOROKU BOARD, OF BRAIDED BAMBOO STRIPS

前號の納れ物で、籐篋は竹の網代細工。

(132) 榻足机 六前 (北一七六)

LOW TABLES

北倉階下

物を載せる臺机。四脚。脚が左右に開いている。

(133) 銀平脱合子 四合 (北二五)

GOSU INLAID WITH SILVER

次の二號の棊子の容器。

(134) 紅牙紺牙撥鏤棊子 (北二五)

GO PIECES ROUND IVORY PIECES CARVED IN BACHIRU STYLE

(135) 白黒棊子 (北二五)

GO PIECES OF QUARTZ AND BLACK STONE

白石は硬玉、黒石は橄欖石である。

(136) 卅二足几 (北一七七)

TABLE WITH THIRTY-TWO LEGS

片側十六本ずつの足がある几。獻物帳には載っていない。

(137) 青斑鎮石 十挺 (北一五五)

STONE WEIGHTS

(138) 赤漆小櫃 (北一五五)

SMALL CHEST LACQUERED RED

前號の鎮石を納める。木牌に「第卅小櫃」とある。

(139) 赤漆小櫃 (北一八〇)

SMALL CHEST LACQUERED RED

西棚

(140) 犀角器 (北五〇)

RHINOCEROS-HORN CUP

もと杯であつたものを薬用にまわしたものである。底裏に「弘仁二年九月十七日勘、十二兩二分」とあり、獻物帳に「重九兩三分」とあるのと一致しない。

獻物帳所載の薬物は六十種であるが、傳わらないものもある。また薬帳に載

つていないものも少くない。

(141) 小草

SHOZO: POLYGALA TENUIFOLIA

獻物帳の小草は延暦十八年全部出藏。

(142) 畢撥

HIHATSU: PIPER LONGUM

莖と根と二とおりある。根の方は畢撥没という。南洋やペルシヤに産する。二瓶の内、甲は根と莖。乙には根莖の外、夾雜物が多い。白絶の袋が附属し、畢撥根三斤十五兩小并袋などの墨書がある。

(143) 寒水石

KANSUISEKI: CALCAREOUS SPAR

方解石である。「寒水石十八斤八兩」と墨書ある白絶の巾きんが附属している。

(144) 太一禹餘糧

TAICHI-UYORO: A PIECE OF STONE OR CLAY IRON ORE

つばいしの一。獻物帳に禹餘糧と太一禹餘糧とが載っているが、禹餘糧は既がない。禹餘糧には禹が山に入つて食に乏しく、これを糧とし、餘りを棄てたので、この名ができたという傳説がある。太一禹餘糧と精粗の差がある。「太一禹餘糧二斤十二兩少」の墨書がある白絶の袋が附属している。

(145) 龍骨

RYUKOTSU: PETRIIFIED BONE OF STEGODON ORIENTALIS

象科や犀科の動物の骨の化石。

(146) 白龍骨

HAKU-RYUKOTSU: PETRIIFIED BONE OF WHITE STEGODON ORIENTALIS

「白龍骨五斤少」の墨書がある白絶の袋が附属している。

(147) 龍角

RYUKAKU: HORN OF MONODON MONOCEROS, L.

(148) 五色龍齒

GOSHIKI-RYUSHI: PETRIIFIED TEETH OF STEGODON SINENSIS, OW. (PL. 23)

(149) 象の白齒の化石。「五色龍齒廿四斤少」と墨書の白絶の袋が附属している。
雷丸 (北七三)

RAI-GWAN: MYLITTA LAPIDESCENS, HOR.

竹に寄生する一種の菌。「雷丸八斤四兩少并袋」と朱書の白絶の袋が附属している。

(150) 赤石脂 (北七七)

SHAKUSEKISHI: A KIND OF GOSHIKI SEKISHI.

酸化アルミニウムで、多量の酸化鐵を含んでいる。「赤石脂七斤二兩少、弘仁二年定」の墨書がある白絶の袋が附属している。

(151) 鍾乳床 (北七九)

SHONYUSHO: STALACTITE

鍾乳石であるが獻物帳外のものか。白絶の袋が附属し、鍾乳床十斤小などの墨書があり、「第二横」と墨書のある木牌が附いている。獻物帳に「納第二横」とあるのに合う。また裏があり、「常陸國信太郡大野郷戸主生部衣麻呂調布の字脱か壹

端、專當國司正八位上志貴上連秋島郡司擬主政元位物部大川天平勝寶四年十月一日」の墨書と國印がある。また、「入野郷生部金万呂」と墨書してある。

(152) 巴豆 (北八二)

HAZU: CROTON TIGLIUM, L.

南方アジアに産する。現代のものと同一で、「巴豆四斤少并袋」と墨書のある袋が附属する。

(153) 厚朴 (北八四)

KOBOKU: MAGNOLIA HYPOLEUCA, S. et Z.

ほおの木の屬で、中國産のもの。四川産の最良品か。「厚朴十三斤八兩少」と墨書のある麻袋がある。

(154) 遠志 (北八六)

ONJI: ROOT OF POLYGALA TENUIFOLIA, WILD (PL. 24)

中國の産。もと束ねたまゝの姿である。ひめはぎ科のいとひめはぎの根で、今のものに同じ。

(155) 桂

心 六束餘

(北八八、八九)

KEISHIN: CINNAMONUM CASSIA

南支や東印度に産する。いわゆる肉桂で、外皮などを除去したもの。麻袋が附属し、「桂心八十一斤小并袋」の墨書がある。また「五横桂心」の墨書のある木牌が附いている。獻物帳に「納第三第四第五横」とあるのに合う。

(156) 芫

花

(北九一)

GENKWA: DAPHNE GENKWA

じんちようげ科のふじもどきの花蕾で、中國中部に産する。現品は大部分蟲害を受けているが、現今のものに同じい。袋七口附属。皆その斤兩を注記した墨書がある。また木牌があり「第六横匙」の墨書があつて、獻物帳に「納第六第七第八横」とあるのに合う。匙は錠の鍵である。

(157) 人

參

(北九三)

NINJIN: RADIX GINSENG (?)

人參ではない。

麻布の袋四口があり、その斤兩を注記してある。うち一口に「常陸國鹿島郡高家郷戸主占部手子戸占部島鷹調曝布壹端、專當國司史生正八位上志貴連秋島郡司擬少領无位中臣鹿島連浪足、天平勝寶四年十月」の墨書と國印がある。この袋は、すべて(194)に屬するものであろう。

(158) 大

黄

(北九五)

DAIWO: ROOT OF RHEUM OFFICINALE

たで科に屬し、根莖を用いる。本品は錦紋あるもので、中國甘肅地方に産する最上のももの。完形のものには干すために繩を通した孔、すなわち穿眼がある。附属の袋の木牌に「第十二横」と墨書があるが、獻物帳に「納第十二第十三第十四横」とあるのに合う。

(159) 蕒

蜜

(北九七)

ROMITSU: CERA

蜜蜂の巢から採取した蜜臘である。附属の木牌に「十五横第廿九通用」とある。蓋し横の錠の鍵に附いていたもので、獻物帳に「納第十五十六横」とあるのと合う。

北倉階下

(160) 芒消と壺

BOSHO: MIRABITE

芒消は普通硫酸ナトリウムであるが、本品は含水硫酸マグネシウム(瀉利鹽)である。壺と袋とがある。袋に「芒消」云々と墨書がある。

五四

(北一〇一)

(161) 胡同律

KOTORITSU, HARDENED SAP OF *POPULUS EUPHRATICA*

胡桐涙で胡桐の蟲傷による分泌物の固つたものと言う。胡桐の原植物については定説がないが、本草には中國の甘肅からペルシャ方面のものとしている。附屬の壺を俵する。

(北一〇二)

(162) 雲母粉

UNBOFUN: MICA POWDER

包紙に「雲母粉三兩大并紙」とある。雲母の粉末。

(北一〇三)

(163) 無食子

SOSHISHI: SEED OF *ABRUS PRECATORIUS*

(北八三)

(164) 戎鹽と壺

JYUEN: SALAMONIAC

相思子(唐小豆)である。(184) と入れ替つたものか。

(北一〇四)

中國西北地方に産する天然鹽。

(165) 甘草

KANZO: ROOT OF *GLYCYRRHIZA GLABRA*

甘肅、青海産の良品。袋と裏とを具する。また「十八積甘草」と墨書のある木牌が附いている。獻物帳に「甘草九百六十斤、右納第十七第十八第十九積」とあるのに合う。

(北九九)

(166) 藥壺

MEDICINE JARS

五口

(北一〇六)

(167) 藥碗

CERAMIC BOWLS FOR MEDICINES

二口

(北一〇七)

(168) 黒漆 槻薬合子

GOSU FOR MEDICINES, LACQUERED

(北一〇八)

(169) 槻 薬合子

六合

(北一〇九)

GOSU FOR MEDICINES

(170) 檜 薬合子

(北一一〇)

GOSU FOR MEDICINES

(171) 雄 黄

(北一一一)

YUWO: REALGAR

以下の薬品は獣物帳外のもの。

(172) 白 石 英

(北一一二)

HAKU-SEKIEI: WHITE QUARTZ

水晶。獣物帳の石水氷に當てる説がある。

(173) 麝 香 皮

(北一一四)

JAKO-HI: MUSK SKIN

(174) 琥 碧

(北一一五)

KOHAKU: AMBER

薬帳の麝香の外皮か。麝香鹿は、アジヤの東部及び中部に棲息する。

中国雲南方面に多く産する。本品は硬度低く現在の琥碧ではない。

(175) 滑 石

(北一一三)

KASSEKI: STEATITE, OR TALC

中国、山東、河南等に産し、国内にも産する。

(176) 木 香

(北一一八)

MOKKO: SAUSSUREA LAPPA

現今の土木香。ヒマラヤからカシミヤ地方の原産。

(177) 丁 香

(北一一九)

CHOKO: CARYOPHILLI

丁子、丁子香ともいう。マラツカ群島に産する。袋を具し、槻合子が附いてゐる。

(178) 蘇^す

芳^{ほう}

SUHO: SAPAN-WOOD, CAESALPINIA SAPPAN

(北一二一)

南方亞熱帶・熱帯に産する。

五八

(179) 青^{しょう}

木^{もく}

香^{こう}

SHOMOKKO: ARISTOLOCHIA KAMIFERI, WILD

(北一一六)

槻合子が附属し、また袋が残存する。中倉の忍冬鳳文小横⁽⁴⁵³⁾の題箋に「納丁香青木香 會前 東大寺」とあつて大佛に獻じられてもいる。我が國に産するものは、一名うまのすゞくさという類似品である。

(180) 藥

塵

二瓶

MEDICINE ODDMENTS

(北一三五)

藥帳の薤核^{ずいかく}胡椒^{こしょう}理石^{りせき}帳外の白檀^{びやくだん}決明子^{けつめいし}甘松香^{かんしょう}大麻^{たいま}仁胡^{にこ}菱子^{りやうし}などが混在する。

(181) 陶

藥器殘闕

FRAGMENTS OF CERAMIC JARS AND BOWLS FOR MEDICINES

(182) 冶^や

葛^{かつの}

壺

【圖版二五】

YAKATSU JAR, FOR THE ROOT OF RHUS TOXICODENDRON, L. (PL. 25)

(北一〇五)

冶葛は獻物帳所載のものであるが今はない。蓋に「冶葛□□」と墨書する。

南 棚

(183) 藥

袋

MEDICINE BAGS

(184) 没

食

子

MUSHOKUSHI, GALLAE HELEPENSES

(北一二四)

ぶな科の植物に没食子蜂が寄生してできたもの。小アジア産のものと同じで、ふし蜂も検出されている。獻物帳所載のものか。

北倉階下

五九

(185) 烏 藥 の 屬

UYAKU, ROOT OF LINDERA STRYCHNIFOLIA

(北一二七)

烏藥ではない。(182)の冷葛かという説がある。

(186) 獸 膽

JIU-TAN, ANIMAL GALL-BLADDER

(北一三二)

猪膽かの説がある。

(187) 礦 石 數 種

VARIOUS MINERALS

(北一三四)

石膏・方解石・石灰石(大理石)及び動物の化石等。

(188) 沈 香 及 び 白 檀 二 瓶

JINKO AND FRAGMENTS OF BYAKUDAN

(北一二九)

大瓶の方が沈香で、南方熱帯の産、白檀は東印度・マレー半島に産する。

(189) 錫 藥 壺 三 口

TIN MEDICINE JARS

(北一二八)

(190) 紫 色 粉

PURPLE POWDER

(北一三〇)

俗赭石の粉末である。

(191) 白 色 粉

WHITE POWDER

(北一三一)

胡粉である。

(192) 草 根 木 實 數 種

VARIETY OF HERBS AND FRUIT

(北一三三)

薤核・香附子・雷丸・梔子等。

(193) 薰 陸

KUNROKU, HARDENED SAP OF PISTACIA KHINJUK

(北一二五)

元來印度・ペルシヤ方面に産する樹脂香料であるが、本品はやゝ異なる。袋や裏が附屬している。

(194) 竹節人參

CHIKUSETSU NINJIN: RADIX GINSENG

普通の人參で獻物帳所載のものか。(157)に附屬する袋は本號に屬するものであろう。

(195) 紫鉚

SHIKO, SECRETION OF COCCUS LACCA

また紫鑛と書く。ラック・カイガラ蟲が樹枝に寄生して分泌したもので、印度・ペルシャ方面に産する。獻物帳所載のものか。

(196) 銀泥

GINDEI, PULVERIZED SILVER

包紙に「銀泥上定十五兩三(?)分三朱」とある。微量の金及び銅を含んでいる。

(197) 藥袋

MEDICINE BAGS

(198) 丹

TAN: CINNABAR MINIMUM MENNINGE

現代の鉛丹、國內にも産する。内包は古記録の故紙を用いている。麻や紙の袋が附屬している。

(199) 杉小櫃

SMALL CHEST

丹の一部を納める。蓋は闕く。

(200) 漆皮箱

LACQUERED HIDE BOX

蓋表の貼紙に「第一革莖納練金」とある。

(201) 白石鎮子

CARVED STONES SLABS (PL. 26)

四神と十二支を二つずつ組み合わせて半肉彫りにしている。裏に左の墨書がある。

〔須彼天馬〕〔青龍朱雀〕〔阿斯大无沙〕〔玄武白虎〕〔須彼大馬□□□〕〔子丑〕
〔秦司〕〔辰巳〕〔山伐一馬〕〔午未〕〔山伐山伐〕〔戌亥〕
獻物帳所載の白石鎮子ちんす十六箇は、弘仁五年九月十七日出藏して賣却されている。
本號は鎮子というべきものではない。

(202) 御 甲 殘 闕

(北四〇)

ARMOUR FRAGMENTS

獻物帳の御甲一百領の内、一領ははやく除物となり、残りえみのは天平寶字八年えみの惠美押勝おしかつの亂に出藏、本號は帳外の挂甲かけよろいの殘闕である。

(203) 赤 漆 八角小櫃

(北一五七)

LACQUERED OCTAGONAL BOX

(204) 赤 漆 六角小櫃

(北一五七)

LACQUERED HEXAGONAL BOX

前號は聖武天皇の、本號は光明皇后の御禮冠の櫃で、中に冠架がある。

(205) 禮 服 御冠殘闕

(北一五七)

ON-KAMMURI, IMPERIAL HEADRESSES FOR CEREMONIAL OCCASSIONS

禮服と御冠とは獻物帳には載せていないが、延暦十二年曝涼使の解(9)、弘仁二年勘物使の解(8)、齊衡の禮冠禮服目録(10)に見えている。いま禮服を佚し、御冠は後嵯峨天皇仁治三年一二四二出藏、内裏に進められたが、還納の時、途上で毀損し殘闕を留める。なお禮服の木牌が存し、左の墨書がある。日附は大佛開眼の日に當る。

(表) 納禮服二具 一具太上天皇 第三櫃

(裏) 天平勝寶四年四月九日 第三櫃

(206) 漆 冠 筥 二合

(北一五七)

LACQUERED CYLINDRICAL BOXES

棚外

(207) 全 淺 香

ZENSENKO INCENSE WOOD LOG

(北四一)

獻物帳に「全淺香一材重大卅四斤」とあり、また附箋に「寺權秤定卅三斤五兩」とある。現在十六疋六百五十瓦。

(208) 金 字 牙 牌

IVORY TABLET

(北四一)

表に「仁王會獻盧舍那佛淺香一材」裏に「天平勝寶五年歲次癸巳三月廿九日」とある。この仁王會のことは續日本紀に見えている。

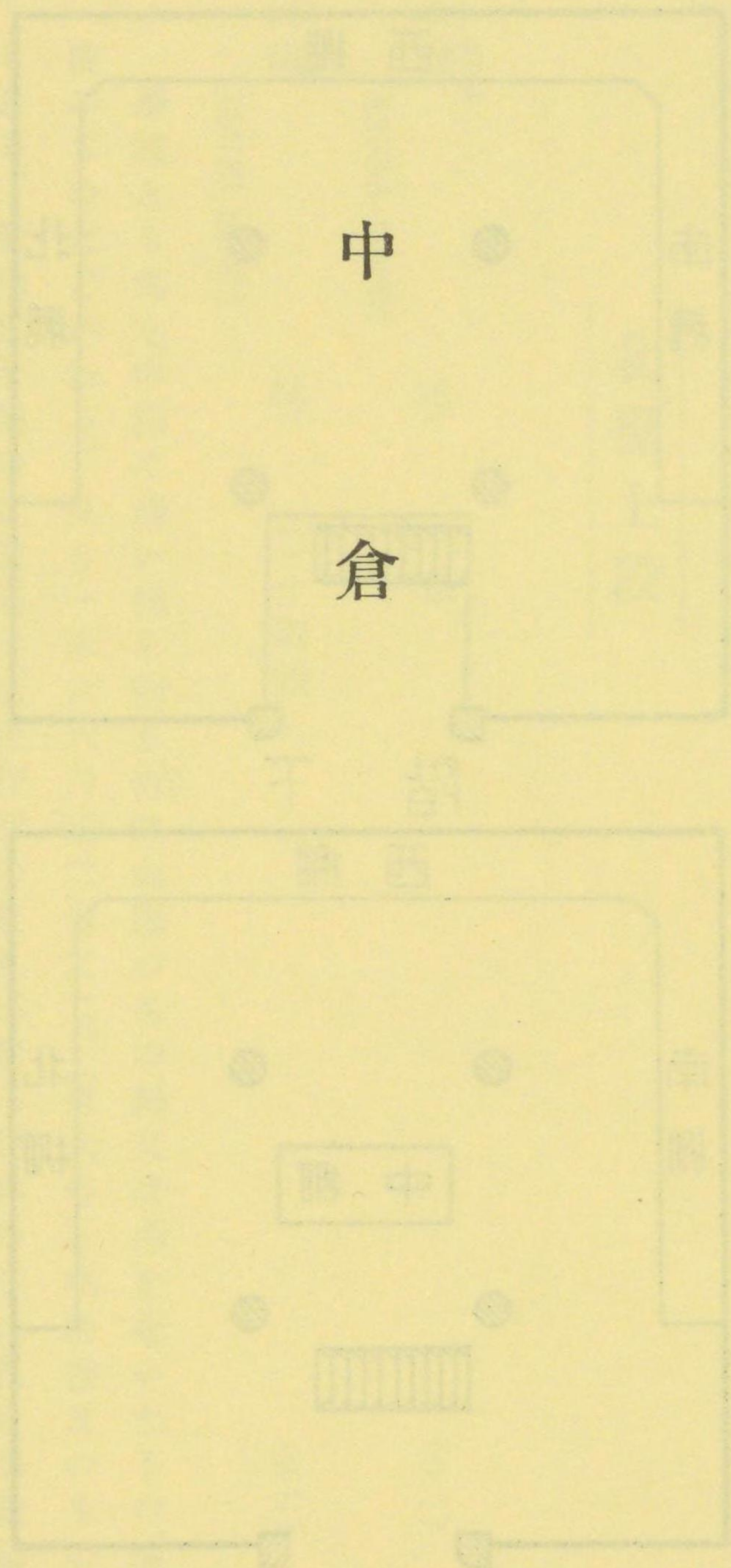
(209) 色 氈

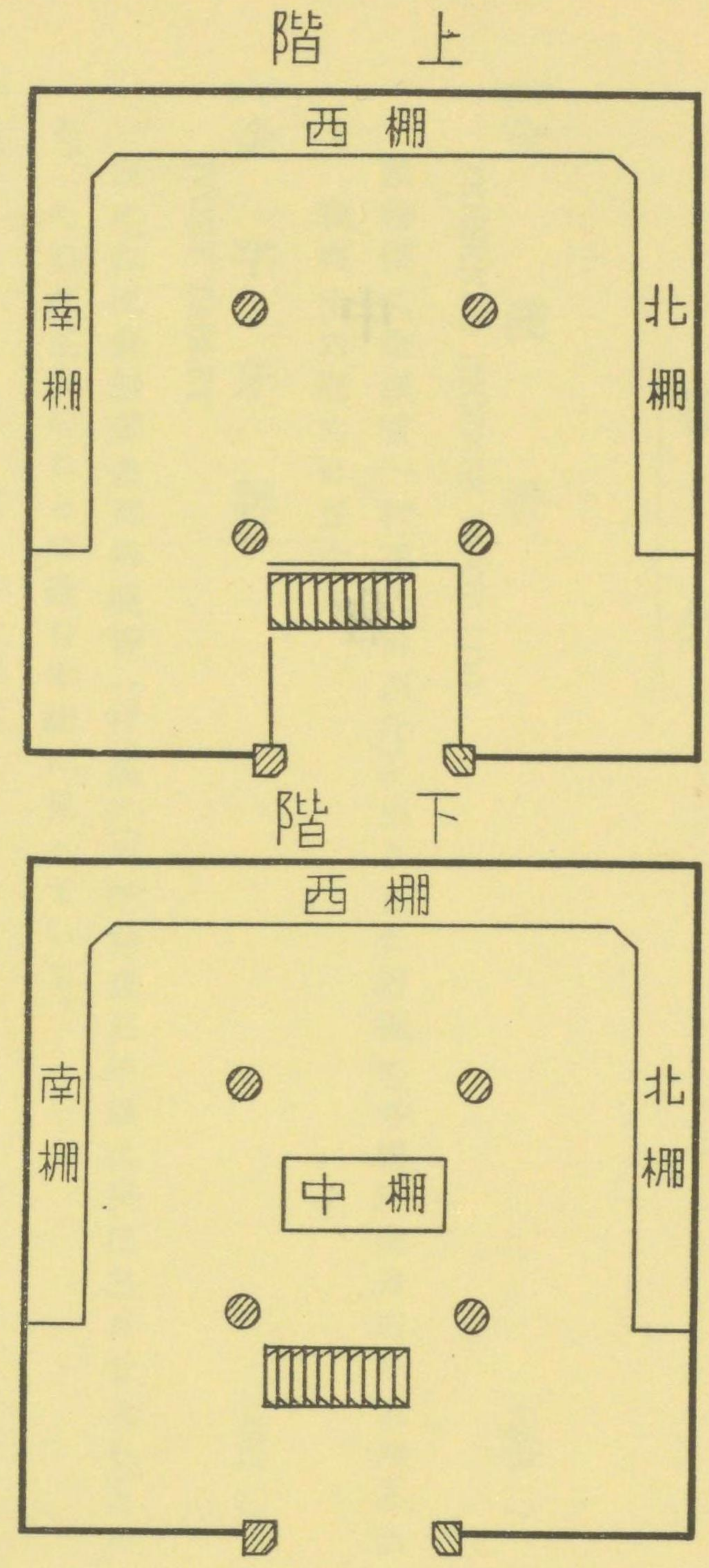
COLOURED RUGS

十四床

(北一五一)

獻物帳外のもの。紅・紫・褐・白の氈で文様はない。





中倉階上

北棚上段

(301) 梓 あずさ

AZUSA BOWS

弓 三張

(中一)

(302) 槻 つぎ

TSUKI BOWS

弓 二十四張

(中二)

兩號とも丸木、中程に浅い樋を割り、弭はは金銅のもの、絲又は樺を卷いたもの、漆塗のものなどがある。長さ一米六六乃至二米二二。「東大寺」と胡粉書きのものもある。獻物帳所載の百三張は、惠美押勝の亂に出藏。現存の弓は色目が獻物帳と合わない。

中倉階上

北 棚

(303) 弓 弦 殘 闕

BOW-STRING, FRAGMENT

(中一)

(304) 鞆

TOMO A SORT OF ARCHERS' WRIST-GUARD

十五口

(中三)

革製、黒漆塗、芯に獸毛を入れてある。弓を射る時に手頸に着用したものである。

(305) 赤 漆 杉 小 櫃

LACQUERED BOX

(中二六)

鞆を納める。

(306) (318) 大 刀

SWORDS (PL. 27)

十四口 二十六口の内

【圖版二七】

(中八)

概ね鑄作り、直刀。獻物帳所載の大刀百口は惠美押勝の亂に出藏。現存のもののは(96)(106)(107)の外は色目が獻物帳に合わない。

番 號	名 稱	刃	把	鐔	鞘	鞘 尾	號
315	銅 漆 作 大 刀	六六・九 糧	鮫皮、黄金の押	漆塗、密陀繪	黄 金		一
314	銅 漆 作 大 刀	六四・四 糧	縫、斑犀の頭	漆塗、密陀繪、金	鐵、金銀鏤		二、三
313	銅 漆 作 大 刀	三四・七 糧	一口把頭後補	銀水精莊の鉸具			四
312	黒 作 横 刀	四五・〇 糧	沈 檀	文獸形、金銀平脱葛			五
311	金 銅 莊 横 刀	四三・八 糧	紫 檀	漆塗、金銀平脱葛			六
310	金 銅 莊 横 刀	四六・七 糧	紫 檀	漆塗、密陀繪			七
309	金 銅 莊 横 刀	四七・九 糧	紫 檀	漆塗、密陀繪			八
308	金 銀 莊 横 刀	四七・九 糧	紫 檀	漆塗、密陀繪			九
307	金 銀 鈿 莊 唐 大 刀	六五・七 糧	紫 檀	漆塗、密陀繪			〇
306	黄 金 莊 大 刀	七一・一 糧	紫 檀	漆塗、密陀繪			一

中 倉 階 上

六九

番號	名	稱	刃	把	鐺	鞘	鞘尾	號
331	黒作大	刀	六六・一糶	絲	纏	漆塗		二六
330	黒作大	刀	五九・五糶	牟久	木	漆塗		二五
329	黒作大	刀	六二・〇糶	絲	纏	漆塗		二四
328	黒作大	刀	五〇・四糶	後	補	後	鐵	二三
327	黒作大	刀	六七・九糶	絲	纏	後	鐵	二二
326	黒作大	刀	六六・〇糶	絲	纏	漆塗		二一
325	黒作大	刀	六五・一糶	絲	纏	皮貼、漆塗		二〇
324	黒作大	刀	六五・一糶	絲	纏	漆塗	鐵	一九
323	黒作大	刀	六四・六糶	絲	纏	漆塗	鐵	一八
322	黒作大	刀	六五・〇糶	闕		漆塗		一七
321	黒作大	刀	六三・三糶	絲	纏	漆塗		一六
320	黒作大	刀	五九・九糶	絲	纏	漆塗	後補	一五

(320)
(331)
大
SWORDS

刀 十二口 二十六口の内

西 棚

(中八)

(319)

赤漆細長櫛 三合

LACQUERED LONG CHESTS, FOR THE SWORDS

大刀が納めてあつた櫃。

横刀は佩刀というに同じい。
黒作とは鞘・鉸具のすべて黒漆のもの。

318	黒作大	刀	六五・八糶	絲	纏	漆塗、布帶執		一四
317	黒作大	刀	六八・二糶 平作り	絲	纏	漆塗		一三
316	黒作大	刀	五七・四糶	樺牟久	纏後	後補	鐵	一二

七〇

(中二七)

(332) 無 莊 刀 八口 二十三口の内

(中九) 七二

番號	名	稱	双	號
339	無	莊	刀	四九
338	無	莊	刀	四八
337	無	莊	刀	三二
336	無	莊	刀	三一
335	無	莊	刀	三〇
334	無	莊	刀	二九
333	無	莊	刀	二八
332	無	莊	刀	二七

(340) 漆 葛 胡 祿 LACQUERED QUIVER (中四ノ三)

箭五十隻を納める。箭は篠竹の籐、二立羽、鐵鏃。二下毛野那須郷今一二の刻文が

(341) 漆 葛 胡 祿 LACQUERED QUIVER (ARROWS PL. 28) (中四ノ四)

ある。胡祿は箭を納めて背に負うもので、つづらふじで組み、皮の帯が着いている。すべてで三十三具(白葛三、漆葛十一、赤漆葛十五、白葛平形四)。獻物帳所載のものは恵美押勝の亂に出藏。現存のものは色目が獻物帳と合わない。

(342) 漆 葛 胡 祿 LACQUERED QUIVER (中四ノ二)

「東大寺」と朱書。箭五十一隻を納める。箭は篠竹、三立羽、鐵鏃。麻緒で編んで二連とする。鏃箭一隻が添っている。

(343) 赤 漆 葛 胡 祿 LACQUERED QUIVER (中四ノ二)

附屬の木牌の表に「矢一柄 木工衣縫大市所給如件」裏に「天平寶字八年九月十日」と墨書する。この日附は恵美押勝が叛し、近江に奔つてから四日目に當るが、諸司の官人が武装して亂に備えた様判る。

(349) 桑木金銀繪鞍

SADDLE, OF MULBERRY-WOOD

(中二二ノ二)

鞍橋は木地に金銀の泥繪、鞍は後輪のみにある。錦の鞆、熏草の鞍褥。銀鏤の壺鐙、黒革の鐙鞞、金銅の莊。腹帯の端に「常陸國茨城郡大幡郷戸主大□□馬麻呂調、一端」の墨書があり、國印を捺す。

(350) 牟久木鞍

SADDLE, OF MUKU-WOOD

(中二二ノ二)

居木は檜、鞍通に金銀の金具、葛形彫りがある。銀鏤の壺鐙、洗皮の鐙鞞、金銅の莊。腹帯の端に「天平勝寶四年十月」の墨書がある。調庸に関するものと思われる。

(351) 黒柿鞍

SADDLE, OF BLACK PERSIMMON WOOD (PL. 29)

(中二二ノ三)

鞍は紫革に鹿角の管を貫く。鞆は錦の縁、鞍褥は錦。鐵の壺鐙。

(352) 黒柿鞍

SADDLE, OF BLACK PERSIMMON WOOD

(中二二ノ四)

製作は前に同じい。腹帯の端に、調庸に關係があるらしい「國司史生」「連秋島」等の墨書がある。

(353) 手鉞

TE-BOKO, HAND-SPEARS

(中一〇)

(354) 鉞

HOKO, SPEARS (PL. 30)

三十三枚 【圖版三〇】

(中一一)

又は三〇糎内外、三角錐形のものや、枝や鈎のあるものが多く、皆袋穗である。柄は三米餘から長いのは四米を超し、多くは木を竹で包んで糸で纏いてあるが、また漆塗のものもあり、鐵または皮の約を着け鐵の鐔がある。

(355) 無

莊 刀

十五口

口の二十三内

七八

(中九)

SHORT SWORDS

刃の長さ四六纏内外、庖丁形で、鑄作一口の外は平作りである。

中倉階下

中 棚

(356)

勅書銅板

COPPER PLATE

(中一四)

明治年間、東大寺から古文書と共に納めたものである。

(357)

詩

序

【圖版三一】

(中三二)

SHUO, A SCROLL CONTAINING FORTY-ONE PREFACES OF POEMS (PL. 31)

麻紙、紙の標表紙、紫檀金銀繪の軸。標題に「詩序一卷」とあり、王泐の文集で、序文の類四十一首を収める。尾題に「慶雲四年七月廿六日」とある。

中倉階下

七九

(358) 沈香末塗經筒 【圖版三二】 (中三三)
SUTRA CASE (PL. 32)

表面に沈香末を塗り、丁子と相思子(唐小豆)とを嵌して飾り、内側に金銀泥繪の花卉文がある。いま假に前號詩序を納める。

(359) 梵網經 (中三四)
BRAHMARAJA SUTRA

白麻紙、紫紙の標、水精の軸。標に金銀山水繪がある。次號の筒に納める。

(350) 檜金銀繪經筒 【圖版三二】 (中三四)
CYLINDRICAL BOX OF HINOKI-WOOD, FOR THE ABOVE SUTRA (PL. 32)

(361) 最勝王經帙 【圖版三三】 (中三七)
COVER FOR SAISOWOKYO (OTTAMARAJA SUTRA) (PL. 33)

縁は茶地錦、裏は緋綾、帯は緞綾。依天平十四年、歲在壬午、春二月十四日勅。天下諸國、每塔安置金字金光明最勝王經の文が編み出されている。

(362) 錦縁竹帙 (中五八)
BAMBOO CHITSU

(363) 紅牙撥鏤尺 四枚 (中五一)
IVORY FOOTRULES

(364) 斑犀尺 (中五二)
RHINOCEROS-HORN FOOTRULE
目盛の刻線に朱を填め、金箔が押してある。

(365) 未造了牙尺 二枚 (中五四)
UNFINISHED IVORY FOOTRULES
仕上げてないもの。

(366) 漆箱 (中五四)
LACQUERED BOX
以上七枚の尺を納める。

(367) 木

MEASURING STICK

尺

銀泥で花蝶を描いている。

(中五三)

八二

(368) 天平寶物墨

SUMI, "TEMPYO TREASURE" INK-STICK

題箋に「開眼、法皇後白河法皇用之、天平寶物」とある。

(中三六)

(369) 天平寶物筆

BRUSH, "TEMPYO TREASURE" WRITING BRUSH

假斑竹の管(軸)。「文治元年八月廿八日開眼、法皇用之、天平筆」の銘がある。

(中三五)

(370) 未造了沈香木畫筆管

UNFINISHED BRUSH HANDLE

竹の管に沈香を貼り、金泥で界線を施し、縁を木畫で飾り「沈香壹尺八寸四步」と墨書。

(中四〇)

(371) 筆

WRITING BRUSHES (PL. 34)

十七枚

【圖版三四】

(中三七)

所謂雀頭筆で、毫穂が短く、紙を巻いて芯にしてある。帽は傘を閉じた形。

號	管	帽	管頭	毫
一	梅羅竹、金莊		牙	
二	沈香・斑竹、樺纏	斑竹、牙、紫檀、銀莊	牙	
三	斑竹、銀莊	斑竹、紫檀莊	牙	存
四	斑竹			存
五	斑竹、牙莊		紫檀	存
六	斑竹、銀莊	斑竹、牙、銀莊	牙、銀莊	存
七	豹文竹	篠竹、樺纏	牙	
八	斑竹	斑竹		存
九	斑竹	篠竹、樺纏		存
一〇	斑竹	煤竹		存

中倉階下

八三

一七	一六	一四、一五	二一、二三
篠竹	假斑竹	假斑竹	斑竹
篠竹	篠竹	假斑竹	篠竹
存			存

假斑竹は斑文を作つて斑竹になぞらえた竹である。

(372) 白 葛 箱

WHITE TSUZURA BOX

次號の箱と共に前號の筆を納める。

(373) 漆 皮 箱 三合

LACQUERED HIDE BOXS

(374) 墨 十四挺 【圖版三五】

SUMI, INK STICKS (PL. 35)

十二挺は船形、二挺は筒形。一挺に「華烟飛龍皇極貞家墨」(背に開元四年丙辰秋作、貞□□□□の朱書)、一挺に「新羅楊家上墨」、また一挺に「新羅武家上墨」の陽

刻がある。

(375) 白 墨

WHITE SUMI

篠竹で挟んである。

(376) 假 斑 竹 箱

IMITATION MOTTLED BAMBOO BOX

黒柿に假斑竹を貼つてゐる。次號の箱と共に墨類を納める。

(377) 赤 漆 葛 箱

LACQUERED TSUZURA BOX (PL. 36)

【圖版三六】

菱文を編んだ上に銀泥の繪がある。覗は羅である。

(378) 竹 帙 四枚

CHITSU MADE OF BAMBOO STRIPS

(379) 經 帙 七枚

CHITSU

中倉階下

(中五九乃至六三)

(中五八)

(中四三)

(中四二)

八五

八四

華嚴經論竹帙、大乘雜經斑藺帙、小乘雜經織成帙がある。

(380) 未造着軸 三百二十枚 (中五五)

UNUSED JIKU, STICKS READY TO BE ATTACHED TO SUTRAS

經卷など卷子本の軸で、瑠璃彩繪漆の端がついている。

(381) 軸端 JIKU ENDS (中五六)

JIKU ENDS

卷軸の端で、瑠璃木・水精瑠璃・彩繪漆のものがあり、對になるもの五十七、對をしなすもの五十八。

(382) 經帙牌 十二枚 (中六五)

TAGS FOR SUTRA CHITSU

經卷の帙につけた牌で、牙と木とがある。

(383) 金字牙牌 (中六四)

IVORY TABLET

牌面に「平城宮御宇中太上天皇元正恒持心經」背に「天平勝寶五年歲次」(癸巳三

月廿九日」とある。(208) の全淺香と同じく、この日の仁王會の獻納と思われる。

心經は佚した。

(384) 青斑石莊硯 【圖版三七】 (中四九)

SUZURI, INK STONE (PL. 37)

硯は陶製の猴膝硯、紫檀木畫の床に据えてある。

(385) 青斑石髓合子 【圖版三八】 (中五〇)

STONE GOSU (PL. 38)

身は八花形、髓の眼は瑠璃。

(386) 獻物牌 五枚 (中六六)

WOODEN TAGS ATTACHED TO DEDICATED ARTICLES

黄楊木四枚「藤原朝臣袁比表良賣獻舍那佛」裏「尼善光」「尼信勝」「楠夫人」の墨書、檜の牌に「藤原朝臣百能」の墨書がある。

(387) 綠金箋 三張 (中四八)

PETAL-SHAPED PAPER

中倉階下

金塵緑紙(緑紙の一面に金砂子を撒いたもの)を蓮瓣形に截つたもので、散華に供するものであろう。

(388) 吹 繪 紙 三十張 (中四六)

FUKIYE-GAMI: PAPER WITH PICTORIAL DESIGNS IN RESERVE

白紙に草木花鳥の文様を吹繪に抜いたもので、藍色と褐色の二様がある。

(389) 色 麻 紙 十九卷 (中四七)

HEMP-PAPER

白碧黄赤等、一千三百餘張。

(390) 赤 漆 桐 小 櫃 (中二〇〇)

LACQUERED SMALL CHEST

棚 外

(391) 黄 熟 香 (中一三五)

O-JUKKO, INCENSE WOOD

沈香の一種。世に蘭奢待と稱する。

(392) 紫皮裁文珠玉飾刺繡羅帶殘闕 (中九五)

EMBROIDERED FRAGMENTS

一つは羅の帯の端と縁の處々に紫皮花形の裁文を着け、雑色の組に珠玉を飾つて垂飾としたもの。藕纈紫綾の裏。一つは藕纈絶と縁綾とを合縫した帯。一つは羅帯に山水花鳥を刺繡したもので真綿の芯が入っている。

(393) 雑 帶 殘 闕 (中九三)

BRAIDED SASHES

雑色緞綬の帶、雑色の組緒等殘闕十四點。

北
棚

(394) 瑠璃杯

DARK BLUE GLASS CUP

(中七〇)

深碧瑠璃の高足盃、外側に環形の浮文がある。金銀の座。
本號から(401)まで(427)の漆小櫃に納めたもの。

(395) 白瑠璃瓶

GLASS EWER

(中六九)

注口と把手とがある。

(396) 瑠璃壺

BLUE GLASS JAR

(中七一)

紺色で唾壺形。

(397) 白瑠璃碗

GLASS BOWL (PL. 39)

【圖版三九】

(中六八)

深鉢形で僅かに褐色を帯び、外側は切子風の龜甲文。

(398) 綠瑠璃十二曲長杯

GREEN GLASS DISH (PL. 39)

【圖版三九】

(中七二)

細身の深皿形で、底裏が圓く、外側に兔形・花葉形の文様がある。

(399) 玉長杯

JADE CUP

(中七三)

底裏は圓す。

(400) 玉器

JADE IMPLEMENT

(中七四)

槌頭形で、長方形の孔が通っている。

(401) 犀角杯

PHINOCEROS-HORN CUP

(中七五)

犀角の尖頂部で用い、角の底部を削つて杯としたもの。

(402) 瑪瑙杯 二口 (中七七)

AGATE DISHES

大きい方は木の葉形で、外側に葉柄、内側に葉脈を刻している。小さい方は卵形で、貼紙に「瑪瑙杯一口 口周九寸七分 重十兩三分」とある。

(403) 白瑠璃高杯 (中七六)

WIDE SHALLOW GLASS VESSEL

淡い萌黄色を帯びる。

(404) 水精玉 五枚 (中七八)

CRYSTAL BALLS

白三枚、紫二枚、各大小がある。

(405) 漆小櫃 (中七九)

SMALL LACQUERED CHEST

黒漆四脚几に載つてゐる。木牌がついていて、表に「納瑪瑙杯二口 水精玉

五枚 白瑠璃高杯一口 雜香六裹 練金十一枚裏に「天平勝寶四年四月九日 第一横と墨書がある。」 (402) から (404) の品はこの題記に當るものであらう。

(406) 裏衣香 九裹 (中八〇)

EBIKO, USED FOR SCENTING CLOTHES

沈香白檀丁子青木香等を混和したもので白絶の包み裂に「神護景雲二年四月 廿六日」の墨書がある。次號の箱に納めてある。

(407) 漆皮箱 (中八一)

LACQUERED HIDE BOX

(408) 銀合子 (中八二)

SILVER BOWL WITH COVER

身の底に「六兩二分小」の墨書。蓋は銅で、銀のつまみ裏に「五兩三分小」の墨書がある。

(409) 黒柿蘇芳染六角臺 (中八五)

SMALL STAND OF BLACK PERSIMMON WOOD

(410) 黒柿蘇芳染小櫃

SMALL BOX OF BLACK PERSIMMON WOOD

内側に香木を樹皮のように貼つてある。

九四

(中八四)

(411) 赤漆櫨木小櫃

SMALL BOX OF ZELKOWA AND LACQUERED RED

蓋の貼紙に「不知獻者」銀合子一合 銀錠まり一口 居黒柿臺 八曲坏二口 十
曲坏二口 銀盤一口 居黒柿櫃 天平勝寶四年四月九日とある。(408)の銀合
子以下二點はこの題記中のものであろう。

(中八三)

(412) 魚骨 笏

SHAKU OF FISH-BONE

「宮 延喜五年五月廿日□」と墨書。

(中八七)

(413) 木 笏

WOODEN SHAKU

(中八六)

(414) 紺玉帶 殘 闕

GIRDLE FRAGMENTS

革帶五片に分斷、群青色の石はいわゆる瑠璃(ラピスラズリ)の原石で、巡方四枚、
丸柄六枚、鏝一枚。次號の箱に納める。ラピスラズリはアフガニスタン産のも
のが有名である。

(中八八)

(415) 螺 鈿 箱

ROUND BOX OF WOOD LACQUERED AND INLAID WITH MOTHER-OF-PEARL (PL. 40)

黒漆塗、丸形、印籠蓋。蓋甲に金平脱唐花文、これを繞ぐる螺鈿嵌玉の花文は蓋
と身の側面に及んでいる。覗は雲縹錦。

【圖版四〇】

(416) 斑犀帶 殘 闕

GIRDLE FRAGMENTS

(中八九)

(417) 革 帶 二條

GIRDLE FRAGMENTS

(中九〇)

金銅の巡方丸柄。一條の鈎具に「東大寺」と刻銘がある。

中倉階下

九五

(418) 柳箱 【圖版四一】

WICKER BASKET-WORK BOX (PL. 41)

前一號の帯を納める。

九六

(中九二)

(419) 漆胡樽 一雙

LAQUERED BARRELS

左右がある。沙漠の旅行に水を入れて、駱駝の兩側につけたものといわれる。

(中一六六)

(420) 漆挾軾

ARM-REST

(中一六七)

(421) 白絶裏鎮子 二枚

LONG WEIGHTS

(中一六八)

木を心にして真綿を巻き、白絶でつつんである。

(422) 銅薰爐 (中六七)

COPPER INCENSE BURNER

北倉の銀薰爐(51)と同じ仕掛けの薰爐。

(423) 四重漆箱

CHEST OF DRAWERS

(中一五〇)

四段抽斗の小篋筒形、二重目から下は順に内側の掛金を外ささなければ開かない。

(424) 白石火舎か 一雙 (中一六五)

MARBLE BRAZIER

佛前に香を焚くうつわ。金銅獅子形の脚と丸環。石は大理石。

(425) 金銅火舎 (中一六五)

GILT BRONZE BRAZIER

附屬の木牌の表に「定坐火爐壹合奩肆合 右依員檢納如件」裏に「五月廿三日史生河内豊繼」と墨書。

(426) 白銅火舎 (中一六五)

“WHITE BRONZE” BRAZIER

底に「東大寺」の墨書がある。

中倉階下

九七

(427) 漆 小 櫃

LACQUERED SMALL BOX

(394) — (401) の品を納めたもので漆小几に据える。

九八 (中九二)

(428) 瑠璃螺鈿八角箱

OCTAGONAL BOX OF WOOD COVERED WITH TORTOISE-SHELL

(中一四六)

(429) 榿 楠 箱

CAMPHOR-WOOD BOX

床は新造。

(中一五八)

(430) 白檀八角箱

EIGHT-LOBED BOX

床脚の底裏に「吉祥堂」と墨書。

(中一五九)

(431) 紫檀小櫃

SMALL SHITAN-WOOD BOX

床は新造。

(中一四四)

(432) 刀子

TOSU (PL. 42)

子 六十口 【圖版四二】

(中一三一)

號	種別	把	鞘	帶頭、鞘尾、	備考
一	大刀子	青石	黒漆	金銀水精	把口烏犀
二	大刀子	斑犀	黒漆	銀漆	紫革帶執殘闕
三	大刀子	斑犀	黒漆	水精	全長三七糎
四	雙	白牙樺	玉木	金	刃本金鏤、組緒殘闕
五	雙	沈香	沈香	金	木牌墨書「楠夫人奉物」
六	雙	沈香	沈香	金	刃
七	雙	犀角	白銀地	白銀	刃
八	雙	犀角	白銀地	白銀	刃
九	雙	斑犀	金銀	金銀	刃
〇	雙	琥犀	金銀	金銀	刃
一		烏犀	漆	金	刃
二		沈香	瑠璃	金	刃
三		水角	沈香	金	刃
四		沈香	斑竹	金	刃

中倉階下

九九

四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一	三〇
					小刀子	小刀子	雙小刀子	小刀子	小刀子	小刀子	三子	三子	三子	三子
斑犀	斑犀(後補)	白牙撥鏤犀	白犀	斑犀	烏犀	白犀	白犀	白犀	白犀	白犀	白犀	斑犀	黑犀	斑犀
斑犀	白牙	白牙	白牙	紅牙	白犀	白犀	水角	水角	水角	水角	白犀	水犀	黑犀	白犀
	牙撥鏤犀	牙撥鏤犀	牙撥鏤犀				角(後補)	角	角	角	角	角	角	角
	金	金										金	金	
	銅	銀										銅	銀	
双										全	刀			
										長	子			
後										五	後			
補										六	補			

二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五
三合刀子	四合刀子			雙	雙	雙	鉋							雙
水角	棗梅	紅梅	黃牙彩繪	白牙	斑犀	紫檀螺鈿	黑柿	白犀(後補)	牟(後補)	白牙(後補)	斑犀	沈香	黑石	斑犀
黑角	棗梅	紅梅	紫牙	白牙	沈香	斑犀	黑柿	白犀	牟(後補)	白犀	綠犀	金薄	白樹皮	樹皮
漆			牙撥鏤犀	牙	繪犀	犀	柿	犀	木	牙	鏤犀	貼	銅	塗
		黃	白		金	金		金	白	金	白	金	金	金
		金(後補)	銀		銅	銀		銀(後補)	銀(後補)	銅(後補)	銀	銀	銀	銀
把口銀漆	把口銀鏤				組緒	組緒		双	双					組緒
					本	本		後	後					殘
					殘	殘		補	補					闕

395270

四五	斑犀	紅牙撥鏤	
四六	斑犀	彩繪瑇瑁貼	金
四七	牟久木犀	牟久木犀	金
四八	小刀子	白犀	銅

種別の欄、雙とあるのは對をなす刀子を示す。

(433) 漆皮箱

LACQUERED HIDE BOX

(中九四)

(434) 漆皮箱

LACQUERED HIDE BOX

二合

(中一三六)

一合の題箋に「寺入」とある。

西 棚

(435) 紫檀木畫花文箱

SHITAN-WOOD BOX WITH WOOD INLAY

(中一四五ノ一八)

黄楊木に紫檀を貼り、花卉雲鳥を木畫であらわす。身は新造。

(436) 紫檀箱

SHITAN-WOOD BOX

(中一六〇)

紫檀を貼り、白牙の界線を施し、内面に木畫の窠文がある。身は新造。

(437) 銀平脱箱中蓋

TRAY IN SILVER HEIDATSU

(中一六四)

(438) 金銀繪漆合子

LACQUERED WITH PAINTINGS IN GOLD AND SILVER

(中一四一)

身は新造。

(439) 漆合子 二合
LACQUERED BOXES WITH LIDS

(中一四〇)

(440) 金銀繪木理箱
BOX WITH GRAIN OF WOOD MARKED IN GOLD AND SILVER

(中一四九)

朽木の寄木、界線を金泥で描く。縁と床脚の小花文は金銀泥畫。

(441) 朽木菱形木畫箱

(中一四八)

BOX, COVERED WITH HALF-DECAYED MOTTLED PERSIMMON-WOOD
斑柿の蝕みたるものを菱形に寄木した小櫃で、床脚は紫檀。

(442) 沈香龜甲形木畫箱
SMALL RECTANGULAR WOODEN BOX

(中一四二ノ一一)

沈香を龜甲形に貼つて、黄金の界線を施している。

(443) 檳榔木畫箱

(中一四七)

RECTANGULAR WOODEN BOX, COVERED WITH ALL OVER WITH BETAL-NUT
PALM

菱形の寄木貼、縁は黒檀、内面は赤地に小花文を描く。

(444) 沈香金繪木畫水精莊箱

(中一四二ノ一〇)

RECTANGULAR WOODEN BOX, COVERED ALL OVER WITH JINKO AND
SHITAN-WOOD

沈香紫檀貼、木畫の界、金泥の繪。また水精板を嵌して、下に彩繪花卉文を置く。
床脚は牙で、葡萄唐草の透彫である。内面は黒柿蘇芳染に金繪。

(445) 紫檀木畫界箱

(中一四五ノ一七)

RECTANGULAR SHITAN-WOOD BOX, HAVING BORDERS IN IVORY

黄楊材、木畫の界、劃内に紫檀を嵌め、内面にも木畫の界を施している。

(446) 沈香^{いしだたみ}登形木畫箱

(中一四二ノ一二)

RECTANGULAR WOODEN BOX

沈香を髹形に寄木し、木畫の界縁に紫檀を貼る。床脚は紺牙撥鏤。蓋裏にも木畫の界縁がある。

- (447) 密陀繪皮箱
LACQUERED BOX WITH LID (中一三九)

乾漆の作。蓋身底裏とも朱彩で唐花葛形を描き、内面は朱地に銀泥の小七曜文を散らしてある。

- (448) 黒柿蘇芳染金銀山水繪箱 【圖版四三】 (中一五六)
BLACK PERSIMMON-WOOD BOX STAINED WITH SAPAN JUICE AND DECORATED WITH A PAINTING IN GOLD AND SILVER (PL. 43)
身は一部を除き新造。

- (449) 金銀平脱皮箱 二合 (中一三八)
LACQUERED HIDE BOXES, DECORATED WITH GOLD AND SILVER
鳳形を中心に花鳥をあらわす。

- (450) 漆箱 四合 (中一六一)
LACQUERED WOODEN BOXES

- (451) 密陀彩繪唐花文小櫃 (中一四三ノ一三)
LACQUERED BOX DECORATED WITH LITHARGE PAINTING IN CONVENTIONAL FLORAL DESIGN

- (452) 密陀彩繪箱 (中一四三ノ一五)
LACQUERED BOX DECORATED WITH LITHARGE PAINTING

- (453) 密陀彩繪忍冬鳳文小櫃 【圖版四四】 (中一四三ノ一四)
LACQUERED BOX DECORATED WITH RED AND YELLOW LITHARGE PAINTING (PL. 44)

蓋の題箋に「納丁香青木香 會前 東大寺」とある。内部は二區に分かる。

- (454) 金銀繪漆皮箱 (中一三七)
LACQUERED BOX DECORATED WITH PAINTINGS IN GOLD AND SILVER

- (455) 黒柿兩面厨子 (中一六二)
CABINET OF BLACK PERSIMMON WOOD

背面にも兩開きの扉がある。棚は一段。

(456) 柿 厨 子

CABINET OF PERSIMMON WOOD

(中一六三)

(457) 漆 十 八 足 几

LACQUERED TALL TABLE

(中一九八)

(458) 蘇芳地金銀鼓樂繪箱

【圖版四五】

(中一五二ノ二六)

BOX, STAINED WITH SAPAN JUICE AND DECORATED WITH PAINTINGS IN GOLD AND SILVER (PL. 45)

蓋表に童子鼓樂の圖、内面は淺紅粉地に胡粉の小花文。底裏は蘇芳地に金銀泥の蝶鳥を描き、「東小塔」の墨書がある。

(459) 緑 地 彩 繪 箱

(中一五五)

BOX DECORATED WITH PAINTINGS OF FLOWERS AND INSECTS ON GREEN GROUND

草花蝶の繪。縁は金地假作瑤瑁。床脚は金地に墨繪唐草文。(461)と對になる。

(460) 粉 地 花 形 方 几

(中一七七ノ二)

LOW SQUARE STAND, PAINTED WITH GOFUN

背は緑地、雲縹彩繪菊葉形の脚。

(461) 蘇 芳 地 彩 繪 箱

(中一五三)

BOX COVERED WITH GOLD LEAF AND MARKED TO IMITATE TORTOISE-SHELL

草花の繪、縁は金地假作瑤瑁。床脚は金地に墨繪唐草文。

(462) 蘇芳地金銀繪花形方几

(中一七七ノ三)

LOW STAND DECORATED WITH PAINTINGS IN GOLD AND SILVER

背は緑地。雲縹彩繪菊葉形の脚。褥が添う。白椽綾、縁は錦、裏は緑纈纈。

(463) 粉 地 彩 繪 花 形 几

(中一七七ノ九)

LOW STAND DECORATED WITH A FLORAL DESIGN ALONG THE EDGE

背に「東塔」の朱書がある。褥は白綾、黄纈の裏。

(464) 黑柿蘇芳染金繪長花形几

(中一七七ノ四)

LOW STAND OF BLACK PERSIMMON WOOD, SAPAN-STAINED ALL OVER AND

DECORATED WITH DRAWINGS IN GOLD

背に「戒壇」と墨書。褥は白絶。

(465) 彩繪長花形几

LOW STAND DECORATED IN UNGEN IN FLORAL PATTERN

(中一七七ノ一八)

緑地の背で八脚。褥は白綾、緑纈纈絶の裏。

(466) 黄楊木几

LOW STAND OF PLAIN TSUGE-WOOD

(中一七七ノ一)

長方形の隅を切つた八角形で、金銅帖角が打つてある。床脚八。褥は緑綾雲
綯錦の縁、緑纈纈絶の裏。几背と褥裏に「大佛殿」と墨書。

(467) 碧地彩繪几

LOW STAND DECORATED WITH A CONVENTIONAL DESIGN ON A BLUE GROUND

(中一七七ノ一五)

兩脚。題箋に「大佛殿獻物」等の文字がある。褥は白綾、錦縁、緑纈纈絶の裏。「長
一尺七寸、廣一尺二寸、以神護景雲二年四月三日幸行、獻大佛殿、東大寺」の墨書があ

る。

(468) 粉地木理繪長方几

LOW STAND WITH ITS UNDERSIDE PAINTED GREEN, AND WITH ITS EDGES MARKED WITH SAPAN JUICE TO IMITATE GRAINS OF WOOD

(中一七七ノ一四)

粉地に蘇芳で木理を描く。背は緑地、兩脚は粉地に金繪。褥は白椶綾、錦の縁、
緑纈纈絶の裏。「長一尺九寸八分、廣一尺□寸□分^(東)、大寺、獻大佛殿」等の文字があ
る。

(469) 蘇芳地金銀花鳥繪箱

BOX, STAINED WITH SAPAN JUICE AND DECORATED WITH PAINTINGS IN GOLD AND SILVER

(中一五二ノ二七)

粉地金繪の床脚。「東小塔」の墨書がある。内面白緑^{びやくろく}地に胡粉繪の小花文。底
裏に、金銀泥で龍鳳雲鳥蝶を描く。

(470) 蘇芳地金銀花鳥繪箱

BOX OF WOOD STAINED WITH SAPAN JUICE AND DECORATED WITH A PAINTING IN GOLD AND SILVER

(中一五二ノ二八)

床脚なし。内面は粉地。

(471) 粉地彩繪箱

(中一五七)

BOX DECORATED WITH CONVENTIONAL FLORAL PATTERN PAINTED IN GREEN, BROWN, WHITE AND PURPLE

浅紅地に彩繪の花文。床脚は雲縹彩色、内面は碧地、蓋裏は碧地に小花文を散らす。

(472) 粉地彩繪方几

(中一七七ノ一〇)

LOW STAND WITH RED BLOSSOMS PAINTED ALL ALONG THE EDGES

四脚。背と貼紙に「千手堂」の墨書がある。褥は白綾、錦の縁、緑纈纈絶の裏。

(473) 碧地金銀繪箱

二合

(中一五一)

BOXES WITH PAINTINGS IN GOLD AND SILVER UPON THE GREEN BACKGROUND

二合同形同大、花鳥文であるが、圖様は異なる。内面は共に浅紅地、底裏に「千手堂」と墨書がある。

(474) 黄楊木金銀繪箱

(中一五四)

BOX OF TSUGE WOOD DECORATED WITH FLORAL PATTERNS IN GOLD AND SILVER

椗に金銀泥で草花鳥を描く。白牙の界線。底裏に「東小塔」の墨書がある。

(475) 粉地銀繪花形几

(中一七七ノ七)

LOW STAND DECORATED WITH FLOWERS, BIRDS AND INSECTS PAINTED IN SILVER

洲濱形、四脚、背に墨書「東小塔」。褥は白羅、雲縹錦の縁、緑纈纈絶の裏。

(476) 投

壺

【圖版四六】

(中一七〇)

TOKO, A SAHARI VASE (PL. 46)

佐波理製。全面に山水、人物、花鳥、獅子、雲等を彫る。

(477) 投

壺

矢

二十三隻

【圖版四六】

(中一七一)

TOKO DARTS, FOURTEEN OF THEM ARE IN IMITATION SPOTTED BAMBOO, AND NINE BOUND WITH BIRCH BARK STRIPS (PL. 46)

假斑竹と樺纏とがある。先きは球になっている。

投壺は「つぼうち」「つぼなげ」といふ、壺に矢を投げ込んで、その入り方で勝敗を決める。禮記に投壺篇があり、投壺は禮器であつたが、また遊戯具でもあつた。漢以來、次第に盛んになつたようである。

南 棚

(478) 籠

箱はこ

(中一七六)

KOBAKO: BASKET BOX

碧地彩繪の床脚。蓋は椶木を組んで、羅を張り、雲綯錦を纏いた痕跡がある。

(479) 籠

箱 二合

(中一七六)

KOBAKO: BASKET BOXES

蘇芳地金銀繪の床脚。

(480) 漆 繪 彈 弓

【圖版四七】

(中一六九)

DANKYU, A BOW WHICH SHOOTS BALLS INSTEAD OF ARROWS (PL. 47)

表に鼓樂技曲の圖を描く。弦は竹、把しやうは紫皮、雜色の組緒を纏く。

彈弓の技は傳わらず、弦で丸たまのようなものを弾く遊戯である。

(481) 漆 彈 弓

(中一六九)

DANKYU LACQUERED

(482) 木 畫 螺 鈿 雙 六 局

(中一七二)

TAGI-BAN USED IN THE GAME OF FLIPPING GO PIECES WITH THE

FINGER TIPS

花欄かりんの材、側面に沈香を貼る。

本品は彈碁盤たきばんであつて、彈碁は、いしはじきともいふ、盤上で碁子を弾いて勝負する技である。

(483) 榧 雙 六 局

(中一七二)

TAGI-BAN

彈碁盤である。

中倉階下

(484) 沈香木畫雙六局

GAMING BOARD OF PERSIMMON WOOD

(中一七二)

黒柿沈香貼り、牙の界線。一種の遊戯具であらうが不詳。

(485) 紫檀木畫雙六局

SUGOROKU BOARD OF SHITAN-WOOD

(中一七二)

(130) の雙六局と同形である。

(486) 雙

六

筒さき

(中一七三)

SUGOROKU DICE BOX OF SHITAN-WOOD, PAINTED IN GOLD AND SILVER

雙六の頭さきを振り出すもので紫檀に金銀繪を施し、口と底に銀が張つてある。

(487) 桑木木畫碁局

GO BOARD COVERED WITH SMALL PIECES OF MULBERRY-WOOD

(中一七四)

界線は角つの、花形の眼、螺鈿と黄牙紺牙撥鏤とで飾る。床脚は牙。

(488) 桑木木畫碁局

GO BOARD

(中一七四)

角の界線、花形の眼、紫檀と花欄などで飾る。床脚は牙。

(489) 金銀繪碁子合子

二合

(中一七五)

GOSU FOR GO PIECES PAINTED IN GOLD AND SILVER

杉材の様に金銀泥で花鳥を描く。

(490) 白葛箱

三合

(中一三二)

TSUZURA BOXES

一合は題箋に「納雜帶並刀子」口、また身と蓋の縁に「東大寺」口の墨書がある。一合には身と蓋に「東大寺花宮」と墨書がある。

(491) 柳箱

箱

(中一三三)

WICKER BASKET

(492) 斑蘭箱蓋

MOTTLED RUSH BOX-LID

(中一三四)

蘇芳染と黄染の蘭を交えて文様を編んでいる。

(493) 粉地金銀繪八角几

OCTAGONAL STAND WITH GOLD AND SILVER PAINTINGS

一一八

(中一七七ノ五)

八花形で四脚。背に「吉祥堂」と墨書。

(494) 粉地金銀繪八角長几

LONG EIGHT-LOBED STAND PAINTED IN GOLD AND SILVER

(中一七七ノ六)

長八花形で六脚。面は緑地、背に「東小塔□□」と墨書。

(495) 檜銀繪長方几

RECTANGULAR STAND OF HINOKI-WOOD

(中一七七ノ八)

縁、床脚ともに粉地の銀繪。

(496) 粉地彩繪八角几

EIGHT-LOBED STAND

(中一七七ノ一一)

八花形で、面背ともに緑地縁と床脚は雲縹の彩繪。

(497) 粉地彩繪長方几

RECTANGULAR STAND

(中一七七ノ一二)

面に木理を描き、背は科文。四脚。

(498) 粉地彩繪長方几

RECTANGULAR STAND

(中一七七ノ一三)

(499) 假作黒柿長方几

RECTANGULAR STAND STAINED TO IMITATE BLACK PERSIMMON-WOOD

(中一七七ノ一六)

金銅の帖角を打ち、鑲を着く。四脚。

(500) 緑地金銀繪長方几

RECTANGULAR STAND

(中一七七ノ一七)

四脚、脚は粉地金銀繪。

(501) 金銀繪長花形几

OBLONG STAND

(中一七七ノ一九)

洲濱形で六脚。面は緑地、背は蘇芳地、縁は粉地に金銀繪。背に「東小塔」の墨書がある。

(502) 漆 八角几

LACQUERED STAND

八花形。脚は新造。

1110

(中一七七ノ二〇)

(503) 牟久木縁檜方几

SQUARE STAND

縁と脚は牟久木。四脚。

(中一七七ノ二一)

(504) 黒栴縁檜長方几

OBLONG STAND

脚は新造。

(中一七七ノ二二)

(505) 檜 長 几

OBLONG STAND OF HINOKI-WOOD

縁は檜に銀繪。床脚は新造。

(中一七七ノ二五)

(506) 榧 長 几

RECTANGULAR STAND OF KAYA-WOOD

(中一七七ノ二六)

(507) 蘇 芳地六角几

HEXAGONAL STAND STAINED WITH SAPAN-WOOD JUICE

六花形で、背は緑地、床脚は假作毒環。縁に銀鍍六箇を着ける。

(中一七七ノ二七)

(508) 牟久木縁檜八角長几

OBLONG STAND OF MUKU-WOOD

脚は新造。

(中一七七ノ二三)

(509) 染木縁檜八角長几

OBLONG STAND

縁と床脚は紫檀色の染木、背は緑地である。

(中一七七ノ二四)

棚 外

(510) 斑犀帶殘闕

(中一二二)

SPOTTED RHINOCEROS-HORN FRAGMENTS, ORIGINALLY ORNAMENTS ON A GIRDL

(511) 牙^の

梳

三枚

(中一二三)

IVORY COMBS

(512) 水

精

玉

二十九枚

(中一二七)

ROCK CRYSTAL BALLS

(513) 琥

碧

玉

四枚

(中一二九)

AMBER BALLS

(514) 琥珀長合子殘闕

(中一三〇)

AMBER GOSU

(515) 魚

形

六枚

(中一二八)

FISH-SHAPED OBJECTS

綠瑠璃大小三枚、碧瑠璃・黃瑠璃・水精各一枚。

(516) 貝

玦

二十六枚

(中一二四)

PIECES OF SHELL INLAY

樂器等の螺鈿に使用したものか。

(517) 貝

環

五枚

(中一二五)

SHELL RINGS

(518) 牙

玦

二枚

(中一二六)

IVORY PIECES

(519) 白

組

帶

(中九六)

WHITE BRAIDED SASH

(520) 犀

角

魚

形 一雙

(中九七)

RHINOCEROS-HORN IN FISH-SHAP

金泥で鱗を描いている。

(521) 斑

犀

合

子 三合

(中九八)

SPOTTED RHINOCEROS-HORN GOSU

一合は犀角の形で蓋は紫檀花形。二合は方形。

(522) 水 精 玉

ROCK CRYSTAL BALL

(中九九)

(523) 瑪 瑙 玉

AGATE BALL

(中一〇〇)

(524) 雑色 緞 綬 帶

BRAIDED BELT

(中一〇一)

(525) 水精長合子 殘 闕

ROCK CRYSTAL GOSU

(中一〇二)

身は新造。

(526) 黄楊木把鞘刀子 一 雙

TOSU WITH PLAIN TSUGE-WOOD HILTS AND SHEATHS

(中一〇三)

刃本に金鏤がある。前號の水精長合子と共に(524)の帯につながれている。

(527) 間縫刺繡羅帶 殘 闕

EMBROIDERED RA SASH

(中一〇四)

花鳥を刺繡し、また金銀泥で描く。

間縫は變り裂をひとつ間に縫い合わせたものをいう。

(528) 琥 碧 魚 形

FISH-SHAPED PIECE OF AMBER

(中一〇五)

銀鎖でつなぎ、雑色の組が着いている。前號の帯につないであつたもの。

(529) 瑠 璃 魚 形

FISH-SHAPED GLASS

(中一〇六)

(530) 水 精 玉 五 枚

ROCK CRYSTAL BALLS

(中一〇七)

(531) 獻 物 牌 二 枚

DEDICATION TAGS

(中一〇八)

木牌。一枚に「從三位藤原朝臣吉日」、一枚に「橘少夫人」とある。

(532) 刺繡羅帶殘闕

EMBROIDERED RA SASH

(中一〇九)

整形スレキナクの刺繡を施して縗ヒョウの綬ヒモにかたどつてある。

(533) 小 尺 五枚

(中一一〇—一一四)

SMALL MEASURING STICKS

一枚は斑犀、長二寸。二枚は組緒でつないだ碧瑠璃と黄瑠璃で、長各三寸。一枚は碧瑠璃、長二寸五分。一枚は黄瑠璃、長三寸。

(534) 紫檀金銀繪小合子

(中一一五)

MINIATURE GOSU OF SHITAN-WOOD, WITH LID SHAPED LIKE A PAGODA

塔形の鏡形。

(535) 紫檀銀繪小墨斗

(中一一六)

MINIATURE SUMITSUBO CARPENTER'S TOOL FOR MAKING LINES

(536) 彩繪水鳥形 二枚

(中一一七)

FIGURES OF WATER FOWL

翼のところに、かけすの羽を貼つている。

(537) 撥鏤飛鳥形 三枚

(中一一八)

SHAPES OF BIRDS

綠牙のもの一枚、紫牙のもの二枚。糸とおしの孔がある。

(538) 小 香 袋 七口 (中一一九)

INCENSE BAGS

福豆形で、表裂に羅を用いたものと、細布を用いたものがある。

(539) 雑色組縁飾殘闕 (中一二〇)

BRAIDED BORDER OF VARIOUS COLOURS

眞珠・丁子・木彫金繪龜の子をつなぐ。

(540) 獻物牌 (中一二一)

DEDICATION TAG

木牌。表に「藤原朝臣久米」裏に廻つて「刀自賣獻舍那佛」とある。

(511) 繪

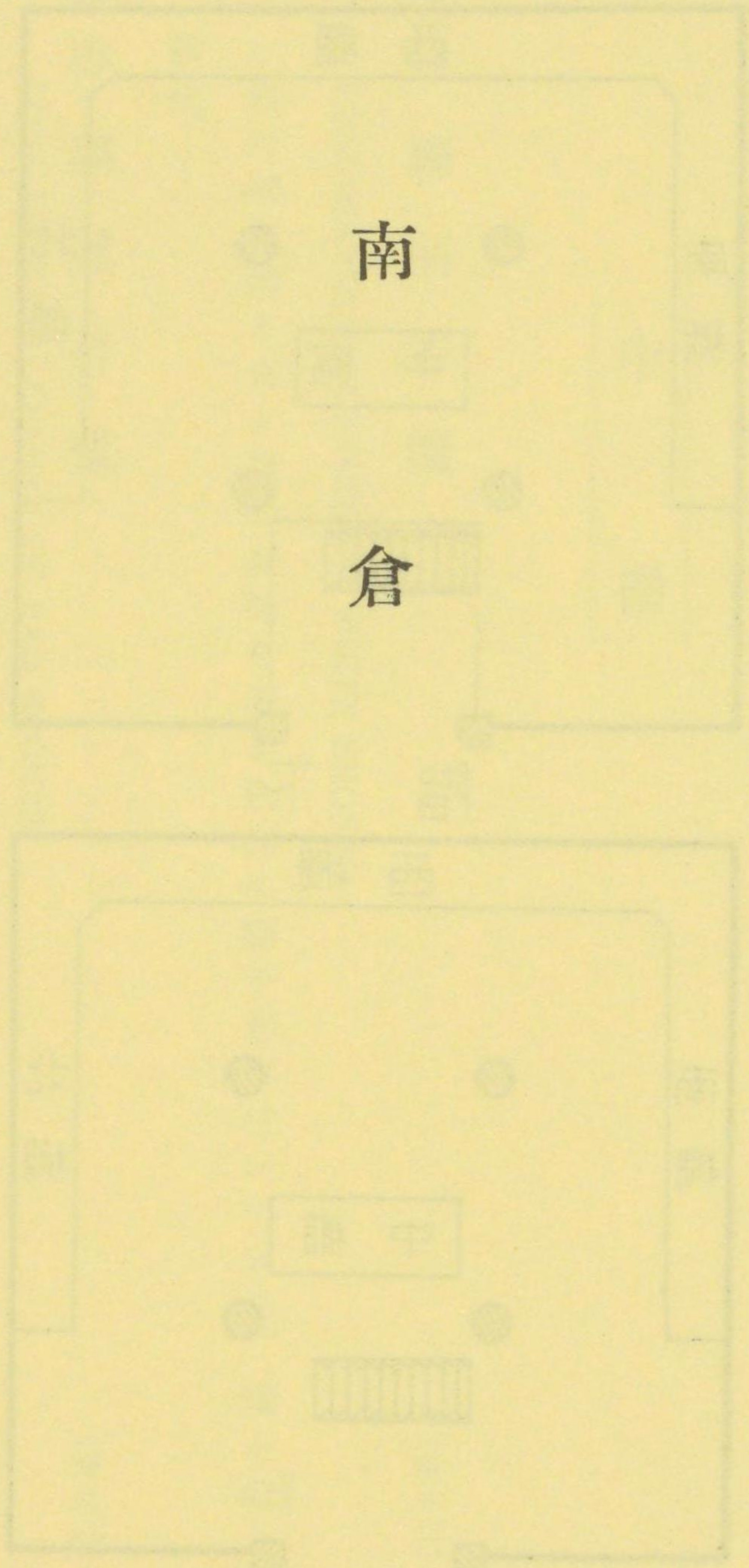
紙 二卷

一三八

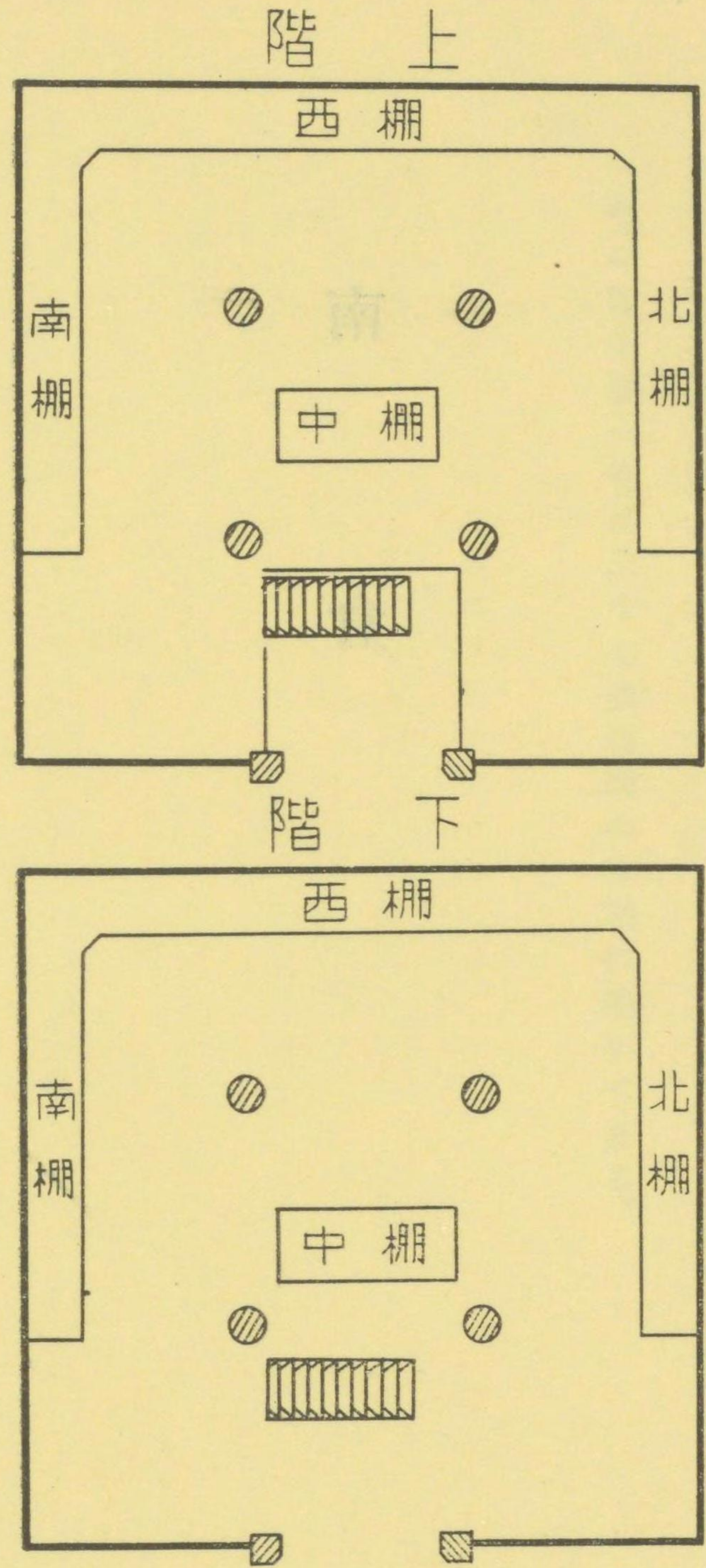
(中四五)

PATTERNED PAPER

一卷は四十張、一卷は三十七張、彩繪の木軸に巻いてある。



南
倉



南倉階上

中棚

(601) 白銅柄香爐

LONG-HANDLED CENSER OF WHITE BRONZE

柄に錦を張り、黄と黒の組緒を巻き、柄頭に獅子形が付いている。爐と鈕つぼみとは新造。

(南五二)

(602) 赤銅柄香爐

LONG-HANDLED CENSER OF RED BRONZE

柄に錦を張り、組緒を巻くこと同前。柄頭爐鈕は新造。

(南五二)

南倉階上

(603) 赤銅柄香爐

LONG-HANDLED CENSER OF RED BRONZE

(南五二)

(604) 白銅柄香爐

LONG-HANDLED CENSER OF WHITE BRONZE

(南五二)

柄頭・爐・爐鈕みな新造品。附屬の漆箱の蓋裏に「神龜六年七月六日」の刻銘がある。

(605) 紫檀金鈿柄香爐

【圖版五〇】

(南五二)

LONG-HANDLED CENSER OF SHITAN-WOOD INLAID WITH GOLD (PL. 50)

紫檀の爐盤と柄の側面は金銀の花鳥文を嵌込み、瑠璃玉で飾つてある。支柱は新造品。

(605) 金銀花盤

【圖版四八】

(南一八)

GILDED SILVER FLORAL PLATTER (PL. 48)

六花形で、中央に鹿形を打出し、縁に雜玉金銅の垂飾をつける。背に「東大寺花盤 重大六斤八兩及び」字號二尺盤一面 重一百五兩四銖半」の刻銘、また表に「四斤」の墨書がある。脚は新造。

(607) 密陀繪盆

十七枚 【圖版四九】

(南三九)

WOODEN DISHES PAINTED WITH LITHARGE (PL. 49)

粉地に黄土で、山水花鳥人物を描き、裏は漆地花形文。

(608) 銀平脱八角鏡箱

EIGHT-LOBED MIRROR CASE DECORATED WITH SILVER HEIDATSU

(南七一)

八花形で、蓋表は銀平脱の鳳凰寶相華文。銀の帖角が打つてある。

(609) 銀平脱鏡箱

LACQUERED MIRROR CASE DECORATED WITH SILVER HEIDATSU

(南七一)

外形は圓く、内側は八稜形で、底裏にも銀平脱がある。

(610) 漆皮金銀繪八角鏡箱

MIRROR CASE OF HIDE LACQUERED

(南七一)

底裏にも金銀花鳥の繪がある。

(611) 漆皮八角鏡箱

MIRROR CASE OF HIDE LACQUERED

(南七一)

(612) 金銀繪鏡箱

LACQUERED MIRROR CASE PAINTED IN GOLD AND SILVER

(南七一)

蓋表は花鳥その裏は山水の繪。蓋と身とが合わなす。

(613) 金銅花形合子

二合 【圖版五〇】

(南一九)

GILT COPPER DISHES (PL. 50)

一合の身は新造品。

(614) 刻彫梧桐金銀繪花形合子

二合

(南三六)

PAULOWNIA-WOOD DISHES IN A FLORAL DESIGN WITH COVERS IN PIERCED WORK

一合の底に「戒壇堂」と墨書。脚は新造。一合は身新造。

(615) 同 殘 闕

(南三六)

PAULOWNIA-WOOD DISH AND COVER

蓋と身各一。身の底に「戒壇」と墨書。

(616) 朴木粉繪高杯

(南三八)

TALL DISH OF HO-WOOD

(617) 漆 瓶 龕

(南二六)

LACQUERED CASE FOR VASE

題箋があるが讀めない。瓶は佚した。

(618) 佐波理水瓶

二口 【圖版五一】

(南二五)

SAHARI EWERS (PL. 51)

一口は人面の注口。

佐波理は銅鉛錫の合金で響銅という。

(619) 金銅水瓶

(南二四)

GILT COPPER EWER

注口は鳥首。

(620) 漆 香 盆

(南四一)

LACQUERED INCENSE TRAY

裏に「香水」と墨書し、また「圖書寮」の刻銘がある。

(621) 金 銅 剪 子

GILT COPPER SCISSORS

(南三三)

(622) 金 銀 匙

GILDED SILVER SPOON

(南四三)

柄頭の裏に「重大三兩」の刻銘がある。

(623) 佐 波 理 匙

SAHARI SPOON

(南四四)

(624) 金 銅 小 盤

GILT COPPER DISH

(南二二)

扁圓十二曲形で、内外に魚子地を打ち、花文を刻んでいる。

(625) 金 銅 六 曲 花 形 杯

GILT COPPER BOWL

(南二一)

魚子地に奏樂の圖が毛彫してある。

北 棚

(626) 花

FLOWER BASKETS

籠かご

五百六十五口

(南四二)

花笥、花籬とも書き、佛事に用いて花を盛る。深形と浅形とあり、中宮文武天皇夫人宮子齋會花笥 天平勝寶七歲七月十九日 東大寺、また天平勝寶九歲五月二日 東大寺と墨書のあるものがある。前者は聖武天皇母后の、後者は聖武天皇の御一周忌使用のものである。

(627) 磁

POTTERY BOWLS (PL. 52)

鉢

二十五口

【圖版五二】

(南 九)

(628) 佐 波 理 匙

SAHARI SPOONS

三百四十五枚

(南四五)

長形と圓形とが組になつてゐる。

(629) 佐波理皿 六百九十七枚

(南四六)

SAHARI DISHES

(630) 佐波理加盤 四百二十六口

(南四七)

SAHARI BOWLS

食器で碗を容籠いそごに重ねて盤を蓋にする。十重九重などの別がある。

(631) 庖丁 十枚

(南四八)

KNIVES

(632) 貝匙 六束

(南四九)

SHELL SPOONS

(633) 磁瓶

(南七)

POTTERY VASE

(634) 磁皿 二十九口

(南八)

POTTERY PLATES AND DISHES

底に「訓國黒万呂」「戒堂院 聖僧供養盤 天平勝寶七歲七月口 東大寺」と墨書のあるものがある。

(635) 八角金銀盤 三枚

(南一四)

GILDED SILVER PLATTERS

八花形で、それぐ「重大三斤三兩」「重大三斤四兩」「重大三斤八兩」と刻銘がある。

(636) 漆金薄繪盤 一雙

(南三七)

LOTUS FLOWER PEDESTALS

底に「香印坐」と墨書即ち香印を焚く佛具で、極彩色の蓮花座がある。

(637) 銀提子

(南一六)

SILVER POT

白河天皇の時、麝香五兩出藏の代りに納めたもの。

(638) 銀鉢 四口

(南一一)

SILVER BOWLS

各「重大五斤四兩」「重大五斤六兩」「重大五斤一兩」「重大四斤七兩」と定量を刻み、座にも第一の分に「重大一斤七兩」、第二以下三口の分に「重大一斤八兩」と定量が刻まれている。なお第一の座には墨書「南鐐」。

(639) 銀

鉢

SILVER BOWL

(南一二)

刻銘「重大五斤五兩 延喜十四年十二月十一日 別當大法師智愷住時作入」座は新造。

(640) 銀

壺

一雙 【圖版五三】

SILVER JARS (PL. 53)

(南一三)

面は魚子地に騎獵圖。もと蓋と座があつたが蓋を佚した。一口に「東大寺銀壺 重大五十五斤 甲 蓋實并臺重大七十四斤十二兩 天平神護三年二月四日」座に「東大寺銀壺臺 重大二十二斤 甲」他の一口に「東大寺銀壺 重大五十二斤 蓋實并臺 重大七十斤十二兩 天平神護三年二月四日」座に「東大寺銀壺臺 重大十斤八兩 乙」の刻銘がある。

西 棚

(641) 長八角銀盤

SILVER PLATTER

(南一五)

長八花形、花形を彫り付く。底裏に「重大三斤二兩」の刻文がある。

(642) 漆

鉢

六口

LACQUERED BOWLS

(南一〇)

(643) 金銅八曲長杯

三口

GILT COPPER DISHES

(南二〇)

(644) 金銅合子

GILT COPPER GOSU

(南二八)

645) 赤銅合子 二合

SHAKUDO GOSU, REDDISH BRONZE

(南二九)

646) 赤銅合子

SHAKUDO GOSU, REDDISH BRONZE

(南二九)

塔形の蓋のある塔鏡。次の(647)と(648)も同じ形式である。

647) 黄銅合子 【圖版五一】

ODO GOSU, YELLOWISH BRONZE (PL. 51)

(南三〇)

648) 佐波理合子

SAHARI GOSU

(南三一)

649) 銀合子 二合

SILVER GOSU

(南一七)

一合蓋裏に「六兩三分小二合六兩二分小」と墨書がある。身はいずれも新造品である。

650) 金銅六角盤

GILT COPPER DISH

(南二三)

「東小塔」の墨書がある。

651) 佐波理鏡

SAHARI BOWL

(南三二)

652) 三鈷 二枚

THREE-PRONGED VAJRAS

(南五三)

三鈷金剛杵で一枚は白銅、一枚は鐵である。

653) 柿柄麈尾

SHUBI WITH PERSIMMON-WOOD HANDLE

(南五〇)

麈は大鹿のことで、群鹿が麈の尾の動きを見て往くということから、清談をなす者や佛家が、その尾を柄にすげ、これを執つて人を導く標とした。本品は柄に牙莊を施してあるが、脱落があり、毫毛も大半失せている。

(654) 漆 麈尾箱

LACQUERED BOX FOR SHUBI

一四二

(南五〇)

前號麈尾の箱。

(655) 漆 柄 麈尾

SHUBI WITH LACQUERED HANDLE

(南五〇)

葡萄唐草の牙莊剝落がある。毫全く存しない。

(656) 磁 塔 殘 闕 九枚

SMALL POTTERY PAGODA

(南三四)

中に銅柱をとおしてゐる。

(657) 白 石 塔 殘 闕 二枚

WHITE STONE PAGODA

(南三五)

大理石の笠と基壇の二枚。柱のとある小圓孔があいてゐる。

(658) 白 銅 頭 錫 杖

SHAKUJO PREST'S STAFF OF WHITE BRONZE

(南六四)

柄は鐵で丸形。次號も同様である。

(659) 白 銅 頭 錫 杖

SHAKUJO OF WHITE BRONZE

(南六四)

(660) 鐵 錫 杖

SHAKUJO OF IRON

(南六四)

方形の柄。

(661) 金 銅 大 合 子 四合

GILT COPPER GOSU

(南二七)

塔形錠で、一合左二、一合左四、一左十四、一左十四、一合左十五の刻文がある。一合蓋は新造。

(662) 黄 楊 木 佛 座

WOODEN STAND

(南六三)

金銅雜玉で飾る。殘材を集めての補造である。

南倉階上

一四三

(663) 金銅柄塵尾

SHUBI WITH GILT COPPER HANDLE

(南五〇)

金銅の柄には魚子地に花形を線彫してある。毫はない。

(664) 瑠璃柄塵尾

SHUBI WITH TORTOISE-SHELL HANDLE

(南五〇)

柄頭は紫檀、瑠璃剝落多く、毫は僅かに残っている。

(665) 斑犀竹形如意

NYOI, ANURUDHA OF SPOTTED RHINOCEROS-HORN

(南五一)

柄は竹根形「東大寺」の刻銘がある。次號の箱を具する。

(666) 素木如意箱

BOX FOR NYOI

(南五〇)

「東大寺」の刻銘と「福安立奉如意」の墨書がある。

(667) 鯨鬚金銀繪如意

NYOI OF WHALE-FINS

(南五一)

金銀泥で雲形が書いてある。次號の箱を具する。

(658) 黒柿蘇芳染金銀繪如意箱

BOX FOR NYOI OF BLACK PERSIMMON-WOOD STAINED WITH SAPAN-WOOD JUICE

金銀繪の花文、内面は金繪雲形、鉸具は金銅、床脚八。

(659) 斑犀鈿莊如意

NYOI OF MOTTLED RHINOCEROS-HORN

(南五一)

黄金玉石の莊、紺玉の柄頭。柄に「東大寺」の刻銘がある。

(670) 漆如意箱

LACQUERED BOX FOR NYOI

「東大寺」と刻銘。前號如意的の箱である。

(671) 瑠璃竹形如意

二枚

(南五一)

NYOI OF TORTOISE-SHELL IN BAMBOO-SHAPE

柄は竹幹にかたどり、節際から細條を出す。柄頭を闕失する。

(672) 犀角黄金鈿莊如意

NYOI OF RHINOCEROS-HORN

柄頭は白犀七葉形、黄金珠玉瑠璃刻牙で飾る。柄は紅牙と緑牙の撥鏤、木畫、黄金の界。

(南五一)

(673) 犀角銀繪如意

NYOI OF RHINOCEROS-HORN

白犀に銀繪の花鳥柄は紫檀銀繪がある。

(南五一)

(674) 瑇瑁如意

NYOI OF TORTOISE-SHELL

大きい方の題箋に「玳瑁如意一枚 自上所給下」とある。

(南五一)

(675) 紫檀小架

SMALL FRAME OF SHITAN-WOOD

牙で飾つた鳥居形の小架で、両面に一双ずつ牙の鈎がある。床は瑇瑁木畫、牙脚がついている。

(南五四)

(676) 琥珀碧誦數

AMBER ROSARIES

十三條

(南五五)

玉は百二枚乃至百二十四枚、大部分は水精を併用する。一條は眞珠、水精の曲玉、瑠璃管玉で飾り、龜甲形黒漆箱に納め、箱の題箋に「琥珀碧誦數」一條^(會前)「獻物」とある。一條の題箋に「大會後物 人々獻物」とある。一條に木牌があつて「樞夫人奉」の墨書があり、附屬の柳箱の題箋に「琥珀誦數一條 會前獻物」箱縁に「東大寺會前」の墨書がある。

(677) 雜玉誦數

ROSARY

(南五六)

水精二十九枚、琥珀三枚、瑠璃十四枚、題箋に「不知獻者 會日」とある。

(678) 水精誦數

CRYSTAL ROSARIES

五條

(南五七)

四條は各百八枚、一條は殘闕。

(679) 菩提子誦數

BODAIJU ROSARY, BEADS OF FICUS RELIGIOSA NUTS

百八枚、水精の莊。菩提子ではない。

一四八

(南五八)

(680) 誦數殘闕

ROSARIES

五條

一條は菩提子、一條は琥珀、一條は蓮實。

(南五九)

(681) 柳箱

WICKER BOX

(683) に至る箱は以上の誦數を納める。

(南六〇)

(682) 赤漆柳箱

LACQUERED WICKER BOX

(南六一)

(683) 漆花形箱 十口

LACQUERED HIDE BOXES

(南六二)

(684) 瑠璃杖 二枚

TORTOISE-SHELL WALKING STICK

一枚は丁字形八角造、籐と樺で纏き、牙で飾る。一枚は丁字形竹形造、瑠璃の蔓を巻く。石突は紺牙撥鏤。

(南六五)

(685) 假斑竹杖

BAMBOO WALKING STICK

籐と樺で纏き、頭と尾は水精。

(南六五)

(686) 椿杖 二枚

CAMELLIA WOOD WALKING STICKS

長さ五尺三寸二分、金銀彩繪で皮はだを畫いた皮椿の卯杖である。中國から傳わつて正月初卯に宮中で辟邪の杖を進める儀があつたが、これに用いたもの。寶庫に傳わる三十足机に「卯日御杖机 天平寶字二年正月」とある墨書から、この杖の使用時が推されるであろう。

(南六五)

(687) 衲^{のうの} 御^ご 禮^{らい} 履^り

CEREMONIAL SHOES

(南六六)

御禮服の上に衲の御袈裟を召された時の御履で、緋皮造り、銀の花形に大小の眞珠を嵌め、黄金の押縫がある。聖武天皇の御召用と傳えるが、詳かでない。「第五横」と題箋のある赤漆箱が添っている。

(688) 赤漆 觀木胡床

CHAIR OF KEYAKI-WOOD

(南六七)

殘材を集めて補造したもの。

(689) 屏 風 殘 闕 二扇

SCREEN PANELS

(南六九)

一扇は鳥毛篆書屏風「唯行不易」の文を篆書と楷書と二様に現わす。⁽¹¹⁹⁾の屏風と同斷。一扇は鳥毛帖成文書屏風で「正直爲心神明所祐、禍福無門、唯人所召」とある。

(690) 藺 箱

RUSH BOX

(南七二)

棕櫚を交じえる。

南 棚

(691) 赤漆 八角床

LACQUERED OCTAGONAL STAND

(南六八)

(692) 鳥獸花背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR

(南七〇ノ一二)

(693) 十二支八卦背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ一三)

徑六〇(纏約二尺)の大鏡。附屬の六角楹箱は底に横木を渡し、鐵の環を着けて

南倉階上

釣るのに便にしてある。

(694) 山水八卦背八角鏡

【圖版五四】

(南七〇ノ二)

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR (PL. 54)

金銀の背、山水人物鳥獸八卦を、また双鉤體で次の詩を現わしている。「隻影嗟
爲客、孤鳴復幾春、初成昭瞻鏡、遙憶畫眉人、舞鳳歸林近、槃龍渡海新、絨封待還日、披拂
鑒情親」。次號の箱が添う。

(695) 八角高麗錦鏡箱

MIRROR BOX COVERED WITH BROCADE

(696) 平螺鈿背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ二)

(697) 鳥獸花背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ三)

漆皮箱が添つてゐる。

(698) 山水人物鳥獸背圓鏡

ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ四)

(699) 漆金繪鏡箱

LACQUERED MIRROR BOX

前號の鏡の箱。

(700) 平螺鈿背圓鏡

【圖版五五】

(南七〇ノ五)

ROUND BRONZE MIRROR (PL. 55)

獅子、犀の圖がある。次號の箱が附屬する。

(701) 銀平脫鏡箱

LACQUERED MIRROR BOX

(702) 黄金瑠璃鈿背十二稜鏡

TWELVE-POINTED MIRROR

(南七〇ノ六)

表は白銀。瑠璃鈿はいわゆる七寶である。相當反りがある。漆皮箱が添う。

(703) 鳥獸葡萄背圓鏡
ROUND BRONZE MIRROR

白銅鑄上りは佳良。漆皮箱が添っている。

(南七〇ノ七)

(704) 鳥獸葡萄背圓鏡
ROUND BRONZE MIRROR

漆皮箱が添っている。

(南七〇ノ八)

(705) 鳥獸葡萄背圓鏡
ROUND BRONZE MIRROR

白銅で精良。仔獅子が親獅子に戯れている。

(南七〇ノ九)

(706) 鳥獸葡萄背方鏡
SQUARE BRONZE MIRROR

白銅鑄上り佳良、反りがある。方形の漆皮箱が添っている。

(南七〇ノ一〇)

(707) 漫背圓鏡
ROUND IRON MIRROR

(南七〇ノ一一)

鐵、反りがある。次の箱が添っている。

(708) 漆金銀繪鏡箱
LACQUERED MIRROR BOX

(709) 漫背圓鏡
ROUND BRONZE MIRRORS

(南七〇ノ一四―一二)

(710) 漫背圓鏡
ROUND BRONZE MIRRORS

(南七〇ノ二三―三〇)

鈕に木綿の緒を着けたものがある。

(711) 葉文背圓鏡
ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ三一)

「長相思、毋相忘、常貴、官樂未央」の銘文がある。

(712) 鳥獸葡萄背圓鏡
ROUND BRONZE MIRROR

(南七〇ノ三二)

(713) 花鳥背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR

一五六

(南七〇ノ三三)

(714) 仙人花蟲背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRRORS

(南七〇ノ三四、三五)

(715) 花文背六角鏡

SIX-LOBED BRONZE MIRROR

(南七〇ノ三七)

(716) 花蟲背八角鏡

EIGHT-LOBED BRONZE MIRROR

(南七〇ノ三八)

棚外

(717) 篋

篋 殘 闕

KUGO OR KUDARA KOTO (KOREAN HARPS)

(南七三)

和名百濟琴。二張の殘闕である。復原模造が附いている。

棚上段

(718) 伎

樂

面

百六十四口

【圖版五六】

(南 一)

GIGAKU MASKS (PL. 56)

木彫百三十一面、乾漆(布を心に漆で固める手法)三十三面。文字のあるものを左に挙げる。(乾は乾漆の略)

番號	文	字	番號	文	字
一	婆羅門		五十七	隨群	
二	師子		八	胡論	
三	□(通)群		九	太孤兒	上野
四	隨群	□	一〇	大孤	讚岐

南倉階上

一五七

一一	笑□少女「讚岐	二九	作大田倭麿 十日作了
一二	讚岐	三〇	九年七月 作大田和万呂 功七人
一三	讚□	三一	作大田倭麿 功七人 九年五月
一四	周防	三二	作□坂福貴 功九人
一五	相模國	三三	作□功八人
一六	東大寺 財福師作「夷	三四	後一「天平勝寶四年四月九日
一七	基永師作	三五	前一「東大寺」 天平勝寶□
一九	大日師作	三六	丙「天平勝寶四年四月九日
二〇、二一	捨目師作	三七	第五「基永師作」後一「東大寺 天
二二	延均師	三八	平勝寶□
二四	將李魚成作「前一東大寺 天平勝寶	三九	後一「東大寺」
二五	將李魚成作「前一□東大寺 天平	四〇	左「東大寺」
二六	勝寶四年四月九日「東大寺 天平勝寶	四二	東大寺
二七	將李魚成作「前一東大寺 天平勝	四三	作將李「東大寺」□天平勝寶四年
二八	寶四年四月九日「東大寺 天平勝	四四	延均師「後二」東大寺 天平勝寶四
	作大田和麿 功七人		年四月九日

四五	相國	假	八九	東大寺
四八	□應□	假	九二	延影
四九	隨群	假	九七	秋田
五〇	力士	假	一〇八	速
五七	延均師「東大寺	假	一一七	□防
六二	□均師「東大寺	假	一二四	周防
六八	隨群 (力)	假	一二九	種「一塙」六□
七九	爲首苗史(力)「	乾	一	相李魚成作
八〇	太□	乾	二	東大寺
八二	東大寺	乾	二四	相李魚成作「東大寺 天平勝寶四年
八六	□□師「東大寺			四月九日

南倉階下

中棚

(719) 牙横笛

IVORY FLUTE

(南一一一)

(722) の牙尺八と對をなすものである。

(720) 斑竹横笛

BAMBOO FLUTE

(南一一一)

〔東大寺〕の刻銘がある。

(721) 吳竹横笛

BAMBOO FLUTE

(南一一一)

(722) 牙尺八

IVORY SHAKUHACHI

(南一一〇)

(723) 吳竹尺八 二管

BAMBOO SHAKUHACHI

(南一一〇)

一管〔東大寺〕の銘がある。

(724) 吳竹笙

BAMBOO SHO, MUSICAL INSTRUMENT, A KIND OF SYRINX

(南一〇九)

〔東大寺〕の刻銘がある。

(725) 假斑竹竽笙

BAMBOO SHO AND WU, BOTH MUSICAL INSTRUMENTS

(南一〇八、一〇九)

竽、笙とも壺と膝ひざは銀平脱の花鳥人物畫。〔東大寺〕の刻銘がある。

(726) 吳竹竽

BAMBOO WU

(南一〇八)

壺は銀平脱の寶相華迦陵頻伽等、膝も銀平脱の雲形等。刻銘〔東大寺〕。

(727) 螺 鈿 楓 琵琶

【圖版五七】

BIWA OF MAPLE WOOD INLAID WITH MOTHER-OF-PEARL (PL. 57)

(南一〇一)

楓材、蘇芳染螺鈿の槽、捍撥に山の朝景色を背景に象に騎る胡人が、童子と鼓樂を娛しむ圖がある。槽に「東大寺」と刻銘。

(728) 木 畫 紫檀 琵琶

(南一〇一)

BIWA OF SHITAN-WOOD WITH MOKUGA INLAY

槽に木畫で纓絡尾長鳥を現わし、捍撥に騎馬で狩獵し獲物を運び、調理宴樂する圖がある。

(729) 木 畫 紫檀 琵琶

(南一〇一)

BIWA OF SHITAN-WOOD WITH MOKUGA INLAY

木畫小花文の槽。捍撥に山水古人の畫があるが、くろずんで判りにくい。

(730) 紫 檀 琵琶

(南一〇一)

BIWA OF SHITAN-WOOD

捍撥に猛禽が兎を狙っている圖がある。

(731) 紫檀 金銀繪 琵琶撥

(南一〇二)

BIWA PLECTRUM OF SHITAN-WOOD DECORATED WITH GOLD AND SILVER

(732) 檜

和

琴

(南九八)

KOTO OF JAPANESE STYLE OF HINOKI-WOOD

六絃、面は金銀繪、頭部は紫檀螺鈿で飾り、金薄地山水繪の上に瑇瑁を押し、黄金の界線を施す。磯(いそ)側面は緑地と紅地を交互に配し山水鳥獸を描いた瑇瑁を押し、木畫で界線を作っている。「東大寺」の木畫銘。

(733) 磁

鼓

筒

【圖版五八】

(南一一四)

CERAMIC DRUM BODY (PL. 58)

綠・白・黄・褐の三彩釉の陶製。細腰鼓。

(734) 漆

鼓

筒

二十二口

(南一一五)

LACQUERED DRUM BODIES

腰鼓。木地黒漆塗、一口はその上に彩繪を施したもの。

(735) 鼓皮殘闕

DRUM SKINS

一六四

(南一一六)

彩繪花文があるもの、蘇芳染麻の締緒があるもの、鐵輪ばかりのものがある。

(736) 新羅琴殘闕

SHIRAGI KOTO

(南一〇〇)

殘絃僅かに遺る。「東大寺」の刻銘がある。

(737) 桐木琴殘闕

PAULOWNIA KOTO

(南九九)

七絃樂器で、頭部の裏に轉手七箇をもつえび尾形のもの⁽⁷⁸⁰⁾の内^(カ)が着く。

(738) 木笏

WOODEN SHAKU

(南一二四)

吳樂のもので「東大寺前」^(カ)天平勝寶□「文人」の墨書がある。

(739) 桑木阮咸

MULBERRY-WOOD GENKAN

(南一二五)

雜樂に用いたもので、捍撥は花形の中に松下圍碁の圖が描いてあり、槽に「東大寺」の刻銘がある。袋は深緑絶で「東大寺」納雜樂阮琴袋と墨書。

(740) 武王大刀

DANCE SWORD

(南一一九)

唐樂のもので、刃二尺二寸一分六七厘、黒柿の把、漆鞘に密陀繪、鉸具は鐵。刀身に「武王」「東大寺」「天平勝寶四年四月九日」の刻銘。

(741) 破陣樂大刀

DANCE SWORDS

(南一一九)

唐樂のもので、一口は刃長二尺二寸一分六七厘、黒柿の把、一口は二尺一寸九分(六六・三厘)柿の把。ともに漆鞘に密陀繪、鐵作り。「破陣樂」「東大寺」「天平勝寶四年四月九日」の刻銘がある。白絶の大刀袋二口とも「東大寺」破陣樂大刀 天平勝寶四年四月九日」の墨書。

(742) 婆理大刀

DANCE SWORD

(南一二三)

度羅樂のもので、又は木で白密陀塗、長一尺八寸一分(五五糎)。牟久木の把、漆鞘に密陀をかけ、鉸具も木作。「東大寺」「婆理」の刻銘がある。白絶の袋に「波理太刀」と墨書。

(743) 樂

DANCE SPEARS

粹

二枚

(南一一七)

一枚は鐵刃で枝があり、木の柄の上端に環がある。一枚は木刃、三叉、漆塗、柄は闕失。

(744) 朴木金銀繪琴箱

KOTO BOX OF MAGNOLIA HYPOLEUCA

(南一〇七)

蓋の甲と身の一側は新造。

(745) 鐵方磬殘闕

IRON KEI

(南一一三)

方磬は豎長の鐵板十數枚を一具として、架に懸けて使用する打樂器。いま九枚を遺す。

(746) 甘

竹

律

二口

(南一一二)

BAMBOO RITSU

簫である。二口分の殘闕。一口は舊物七管、一口は九管、ともに楸木の帶。い

すれか一口は獻物帳の「甘竹簫一口、楸木帶」に當るものであろう。

北 棚

(747) 子

日 目 利 箒

二枚

【圖版五九】

(南七五)

NE-NO-HI BROOMS (PL. 59)

目利は著の借字であらう。紫皮の把、一枚は金絲で、一枚は雜玉を貫いたもので其の上を纏き、箒の先は雜玉で飾つてあるので玉箒という。(750)の鋤と對になる。

(748) 粉地彩繪倚几 二枚 【圖版五九】

BROOMS STANDS (PL. 59)

(南七六)

(749) 緑紗几覆及帶

SILK COVERS AND SASHERS

几覆に「子日」目利箒机覆 天平寶字二年正月の墨書がある。また帯に「子日」目利箒机覆帶 天平寶字二年正月の墨書がある。

(750) 子日手辛鋤 二口

NE-NO-HI PLOUGHS

(南七九)

又は鐵漆塗、金銀の花弁文、柄は粉地彩繪の木理、東大寺子日獻 天平寶字二年正月の墨書がある。

周漢の制に正月、天子籍田を耕し、皇后蠶室を掃つて蠶神を祭る儀式があるが、これが我國にも傳わつて、正月初子に行われた。この鋤と玉箒は、孝謙天皇の天平寶字二年(七五八)正月初子の三日に用いられたもの、萬葉集の「初春の初子の今日」の玉箒手に執るからにゆらぐ玉の緒の一首は、この時大伴家持が詠んだもの

である。

(751) 彩繪佛像幡

BUDDHIST BANNER OF SILK

(南一五五)

黄繩。身は四坪、坪ごとに菩薩像一體ずつを畫く。

(752) 赤漆密陀繪雲兔櫝

LACQUERED CHEST

(南一七〇)

樹木・花卉・兔・孔雀・雲等が畫かれている。

(753) 赤漆櫝

LACQUERED CHEST

(南一七〇)

(754) 榻足机 七脚

STANDS

(南一七三)

(755) 檜墨繪花鳥櫝

CHEST OF HINOKI-WOOD

(南一七二)

白木の側面に墨畫。内面は墨塗である。

南倉階下

西 棚

(755) 檜彩繪花鳥櫃

CHEST OF HINOKI-WOOD

(南一七一)

「公驗辛櫃第一、勅書封戸庄園寺務修造任符奴婢溫室の刻銘がある。

(757) 漆花形皿

LACQUERED FLOWER-SHAPED TABLES

(南四〇)

五枚、表は朱金覆輪、裏は黒漆塗に彩繪があり四脚。他は黒漆塗で四脚。

(758) 漆小櫃

LACQUERED SMALL CHEST

(南一六九)

(759) 鎖

PADLOCKS

子 四十三具

(南一六七)

(760) 漆密陀繪雲鳥草櫃

LACQUERED CHEST

(南一六八)

(761) 漆密陀繪龍虎櫃

LACQUERED CHEST

(南一六八)

蓋表に雲と龍、側面に蔓草、怪獸、怪鳥を描く。外は黒漆塗、内は赤漆塗。

(762) 工匠具

ARTISAN'S TOOLS

(南八七—九二)

鉋五、錯三、刀子二、鑽一、打鑽六、多賀禰四。

(763) 針

LARGE NEEDLES

一雙三隻

(南八四)

銀針、鐵針各一雙。別に銀針、銅針、鐵針各一隻、三隻とも題箋に長さ、重さ及び糸の長さを注記し、鐵針には二十四纏の赤糸が着いている。

(764) 緑麻紙針裹

GREEN HEMP-PAPER FOR WRAPPING NEEDLES

(南八五)

「緑淡搓糸一條、重二兩二分大、鐵針一隻」の墨書がある。前號の針は實用品とは思えない。乞巧奠たなほたまつりに金針、銀針を楸木ひさぎの葉に挿み、また色紙にさして織女星に供えて巧たくみを祈るということが江家次第に見えているが、あるいはこれと関係があるものか。

(765) 金 銀 箸 一雙 (南八六)

GILDED SILVER STICKS

(766) 和 同 開 珍 十五枚 (南九三)

JAPANESE COPPER COINS

(767) 神 功 開 寶 (南九四)

JAPANESE COPPER COIN

(768) 藺 筵 十帖 (南一五一)

RUSH MATTING

緑絶の縁、裏に紐を着けたとえば床木にくまりに着けるに適する。

(769) 刻 彫 蓮 花 佛 座 二枚 (南一六一)

CARVED PEDESTALS

(770) 漆 佛 龕 扉 (南一五九)

ZUSHI DOOR

佛像六軀ずつ十三段に貼つたもの、いま三十五軀を存する。表は天部像。

(771) 漆 佛 龕 扉 四扇 (南一五八)

ZUSHI DOORS, CABINET DOORS

表は金銀泥で菩薩などを描き、内側に多數の金銅佛像を貼る。

(772) 佛 像 型 三枚 【圖版六〇】 (南一五三)

MOULDS FOR BUDDHISTIC FIGURES (PL. 60)

銅製陽刻の如來像

(773) 漆 皮 箱 殘 闕 三隻 (南一七五)

LACQUERED HIDE BOXES

(774) 開眼縷

“EYE OPENING” CEREMONY CORD

一七四

(南八二)

縷色の組紐で、題箋に開眼縷一條 重一斤二兩大 天平勝寶四年四月九日とある。東大寺續要錄、東大寺供養記に大佛開眼の時、墨を眼に點する筆に十二條の索を繋ぎ、參會の諸人に執らせ、共に結緣開眼するの意を表わしたと傳える。

(775) 縷

八條

(南八二)

SILK CORDS

白縷大小二條、赤縷一條、黃縷一條、雜色縷四條。

(763) の鐵針一隻は、この赤縷に附

屬。

(776) 綺

緒

(南八三)

KAMBATA-NO-O, A NARROW STRIP OF SILK

幅約八耗、平打ち

(777) 古

裂

類

OLD TEXTILE FABRICS

(778) 藺

蕤 心

三束

(南一五二)

WADDING FOR RUSH MATS

(779) 墨

畫 佛 像

【圖版六一】

(南一五四)

DRAWING OF BODHISATVA (PL. 61)

麻布に飛雲に乗る趺坐の菩薩像を畫く。

(780) 樂

器 殘 闕

(南一七七)

FRAGMENTS OF MUSICAL INSTRUMENTS

七絃樂器殘闕(737)に附屬、琵琶轉手、新羅琴、楸形琴、龍角、箏、龍角と龍舌其の他。

南 棚

(781) 雜

玉 幡 殘 闕

二枚

(南一五七)

PIECES OF BEAD WORK

南倉階下

一七五

種々の色の瑠璃玉を針線に通して編んだもので、形からは花籠かと疑われる。

(782) 金 銅 鈴 九口 (南一六四)

GILT COPPER BELLS

(783) 鈴 百三十五口 (南一六四)

COPPER BELLS

鳥草雲山水の毛彫があるものがある。容器の底裏に「承和四年十月十日、勘定鈴數百口、預諸天連、昨万呂」の墨書がある。

(784) 金 銅 杏葉裁文 十連 (南一六四)

GILT COPPER PENDANTS

鈴鐸で飾り、瑠璃玉を嵌めたもの、磬形の鎮を着けたものがある。

(785) 金 銅 杏葉裁文 (南一六四)

GILT COPPER PENDANTS

硬玉・碧玉・瑪瑙の曲玉で飾つてある。

(785) 金 銅 幡 四條 【圖版六二】 (南一五六)

GILT COPPER BANNERS (PL. 62)

頭部は花形、身部は四分し、葛形・龜甲形・木葉形・鳥雲形の裁文、毛彫を施し、蝶番で連ね、鈴と花形で飾つてゐる。

(787) 金 銅 枚幡鎮鐸 十口 【圖版六三】 (南一六四)

GILT BRONZE CHINTAKU, CYLINDRICAL BELLS (PL. 63)

圓筒形で舌に花形の飾を着く。頂部に「一一二」等の數字が刻まれ、九口に「東大寺枚幡鎮鐸 天平勝寶九歲五月二日」の刻銘、一口に同墨書銘がある。この日は聖武天皇御一周忌に相當する。

(788) 金 銅 鎮 鐸 (南一六四)

GILT BRONZE CHINTAKU

(789) 金 銅 鎮 鐸 八口 【圖版六三】 (南一六四)

GILT BRONZE CHINTAKU (PL. 63)

圓味を帯びた菱筒形。袈裟襷文の界乳がある。舌の飾は鈴を着けた花形。

(790) 金銅鳳形裁文

ORNAMENTAL GILT BRONZE PHOENIX

(南一六三)

(791) 金銅雲花形裁文

GILT BRONZE CLOUD-FORM

(南一六二)

「高笠万呂作」東大寺 天平勝寶四年四月九日の刻銘がある。

(792) 漆金銀繪佛龕扉

LACQUERED DOOR PANELS

(南一六〇)

長六角厨子の扉の殘闕で、兩面に金銀泥で佛・天部・人物・花卉・樹木・岩等が畫いてある。

(793) 古裂類

OLD TEXTILE FABRICS (PL. 64)

【圖版六四】

(794) 古裂塵芥

SMALL FRAGMENTS OF TEXTILE FABRICS

(南一七六)

年表

(月日の下に縦線を引いた記事は寶物の銘・記文による。)

西曆	天皇	年號	干支	記	事
七〇七	元明	慶雲 四	丁未	七・二六—詩序日付	
七〇八	元明	和銅 元	戊申	八・一〇—和銅開珍を行う	
七一〇	元正	靈龜 三	庚戌	三・一〇—平城に遷都	
七二九	元正	神龜 六	己巳	七・六—白銅柄香爐箱日付	
七三一	聖武	天平 三	辛未	九・八—天皇の御書雜集日付	
七三五	聖武	七	乙亥	三月—金銀平文琴を造る	
七四二	聖武	一四	壬午	二・一四—諸國塔毎に最勝王經を安置す	
七四四	聖武	一六	甲申	一〇・三—皇后樂毅論に自署を加えらる	
七四九	聖武	二一	己丑	二・二二—陸奥國黄金を買す	